

第122号

TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE ALUMNI ASSOCIATION NEWS

東京農業大学 校友会ニュース

[発行]
東京農業大学校友会
〒156-0054
東京都世田谷区桜丘3丁目9-31
電話 03-3429-1983
FAX 03-3427-2271
[編集発行人]
校友会会長 三好吉清

「農大らしい農大」しつかり継続・発展

高野克己氏は2期目の学長に就任した。任期は平成29年7月から33年度末まで。就任に当たり、七つのビジョンの実現で未来に向

高野克己学長 インタビュー

かつて「農大らしい農大」が続くように約束している。今後4年間の大学運営への思いを語っていただいた。(聞き手は小野甲二常任理事・事務局長)

2期目の思いを語る



いくという心構えをお聞かせください。

高野 大学のブランド化といいますが、評価を高くしたいと思っています。農大の教育研究はいろいろな分野があるということを示していきたい。

30数校ある海外協定校は、ほとんどが農学系の大学としてスタートしていますが、今は総合大学と道義を異にしてきました。やはり「農大らしい農大」を目指すためには、違分野を入れていたのでは色を薄くしてしまいます。そ

ここで農学から始まって応用生物学、環境科学、生命科学など農学の領域を広げてきました。

最近いろいろな企業や地方自治体から、連携協定を結ばないかなどといった相談を受けます。農大に行けば地域の問題を解決する全ての窓口なり、すべがあるということをおっしゃっているからです。これは農学の総合化ということですね。この路線で進んだことによって今がある。あるいは将来も続く「農大らしい農大」になっているのだと思っています。

活躍する卒業生は財産

学長は「卒業生に愛される農大」とお話しされました。校友への期待があればお聞かせください。

高野 卒業生は財産です。教育研究の成果、農大の看板を社会に広げてくれるのは卒業生の方たちです。また、農大卒業生がいろいろな地域で活躍してくださることは非常にありがたいことです。海外でも活躍されている卒業生がたくさんいらっしゃいます。南米への移住もそうですが、それ以外にも海外でいろいろな事業を展開している卒業生がいます。海外の大学の教授になって活躍している方もいらっしゃいます。

一方では、校友会の地方組織にしっかりとしてほしいと思っています。地方から来た学生が卒業して地方に戻らないと、支部は弱体化してしまう。地域後継者推薦という制度を設けて対応していますが、地方に戻って支部を盛り立ててほしい。

地球相手に世界へ発信

国際化の中の大学運営についてお考えはありますか。

高野 農学というのは地球の環境を相手にしているものです。人類や他の生き物が地球上でどうやってバランスよく生きていくかという学問分野です。日本国内だけを相手にしているわけにはいきません。

東京農大は北緯44度の北海道網走から南は宮古島の北緯24度まで、2200キロにわたって、亜熱帯から温帯、亜寒帯までの農業、生物生産に対する教育・研究を行っています。これだけ広い領域を持った気候帯をカバーした専

社会変化に対応し改組

大学運営は非常に難しい時代を迎えています。1期目には学部、学科の再編などリーダーシップを発揮されてきました。それを振り返って今後の方向をお示しください。

高野 18歳人口が減っているという社会全体の仕組みを大きく変えなければいけない時代になってきています。日本は欧米をモデルとして進んできたのですが、いきなり日本が先頭を走っているという時代になりました。農大の場合、おかげ

これまで卒業生の方たちが社会で活躍しているということとでわれわれは勇気と元気をもらっています。また農大の学生さんは素晴らしいですね」と多くの方から言っていた聞いています。

創立126年の歴史の重みというものが現在の農大を形づくっているということだと思います。それは将来にわたっていくのだろーと思えます。私が学長になってから1期目は改組に重点を置いてきました。社会の変化に対応して、あるいはそれ

ブランド化で評価高め

学長がよく話される「農大らしい農大」、困難な

時代の中で進化する教育研究環境をつくり上げて

未来へ向かって進化し続ける「農大らしい農大」をつくるための七つのビジョン

- さらに「教育で評価される農大」になるために
①学生と教員がふれあう研究室の整備
②教養教育・語学教育の強化
③大学院の教育研究力と教育研究後継者育成の強化
- さらに「研究で評価される農大」になるために
①農大が取り組むべき戦略研究の選定と推進、発信力の強化
②公的機関・企業との連携推進、外部資金の導入
- さらに「地域に貢献する農大」になるために
①地域連携および6次産業推進のための研究支援の強化
②農大が取り組むべき地域貢献プロジェクトの推進
③地方自治体との連携の強化
- さらに「社会・産業に貢献する農大」になるために
①社会で活躍する人材の育成、研究成果の社会への還元
②社会科学系のコーディネータ力による産業界との連携の推進
- さらに「世界に貢献する農大」になるために
①外国人教職員の採用および若手教職員の留学推進
②私費外国人留学生の増加と日本語取得を支援
③国際交流・協働戦略を策定し、教育研究の海外拠点を確保
④海外で活躍する卒業生と相互協力の推進
- さらに「学生に愛される農大」になるために
①3キャンパスにおけるライフサービス向上
②災害時に強いキャンパスおよび体制づくりの推進
③メンタルヘルスケアの推進・支援体制の強化
- さらに「卒業生に愛される農大」になるために
①卒業生と大学をつなぐ各種イベント、情報発信の拡充
卒業生が集う機会や場をさらに創出し、情報発信を拡充して、母校への意識を高める。併せて課外活動の活躍を支援することにより、卒業生の母校愛と求心力を育成する。
②卒業生との連携と協働によるプレゼンス強化
国内外、教育研究、産業界および行政などの各分野で活躍する16万余の卒業生との連携を図り、各地域における卒業生の活躍を通じて各地域・各界における農大のプレゼンスを高める。

承認された予算・決算

平成28年度決算	
Ⅰ 一般会計	
収入総額	172,403,440円
支出総額	156,236,988円
差引残高	16,166,452円
次年度繰越金	16,166,452円
Ⅱ 予納金特別会計	
収入総額	380,487,500円
支出総額	80,600,000円
差引残高	299,887,500円
Ⅲ 基本金特別会計	
収入総額	298,059,172円
支出総額	63,000,000円
差引残高	235,059,172円
平成29年度予算	
Ⅳ 一般会計予算	
収入総額	104,145,452円
支出総額	104,145,452円
差引残高	0
Ⅴ 予納金特別会計	
収入総額	376,762,500円
支出総額	77,975,000円
差引残高	298,787,500円
Ⅵ 基本金特別会計	
収入総額	235,109,172円
支出総額	0
差引残高	235,109,172円

初めて厚木キャンパスで総会



初めて厚木キャンパスで開催された通常総会（トリニティーホールで）

事業計画と予算決める

校友会通常総会が5月19日、初めて神奈川・厚木キャンパスで行われた。平成30年度は同キャンパスを拠点とする農学部改革があるだけに、出席した代議員は関心を持って臨んだ。平成29年度の事業計画や収支予算などが全会一致で承認された。また、学部が改組されたことに伴って校友会会則が一部改正された。

平成29年度東京農業大学校友会通常総会には、全国から代議員209人（定数213人、欠員1人、委任状45人）が出席した。小泉幸道副会長の開会の辞では、主権者を代表して三好吉清会長があいさつ、学校法人東京農業大学の大澤貫寿理事長、東京農業大学・同短期大学の高野克己学長が来賓として祝辞を贈った。また厚木キャンパスでの開催に対して、農学部の小川博学部長が歓迎のあいさつを行った。その他、学校法人東京農業大学の古谷勇治常務理事、農学部農学科の馬場正学科長、同畜産学科の桑山岳人学科長、同バイオセラピー学科の増田宏司学科長が来賓として出席した。

小川学部長は平成30年度からの新学科体制について説明し「これまでの生産農学を中心とした農学だけでなく、生命関係の総合大学として領域を広げていく」と学科改組の理念を明らかにした。

議事に入り議長に福井県支部の小林美宏支部長（昭和42化）を選出、議事録署名人に石川浩一代議員と松丸禎二代議員が指名され議事に入った。第一号議案「平成28年度事業報告並びに決算報告の承認

主権者あいさつをする三好会長



に関する件」、第2号議案「平成29年度事業計画並びに収支予算の承認に関する件」について審議した。提出議案はいずれも原案通り承認された。また審議の過程で、議場から校友会を終了した。

会則第6条4項の準会員規定に、学部改組により新たに発足した生命科学部を加えることが提起され、会則の変更が了承された。

議事終了後、本部からの報告事項として小野甲二常任理事・事務局長が「株式会社農大常磐松第34期営業報告」及び「有限会社農大桜丘第17期

学生会館をお披露目

現役学生も歓迎のもてなし

スで懇親会に臨んだ。会場は平成27年に完成したばかりの学生会館。参加者は、変わるキャンパスを目の当たりにして感心していた。

学生会館前広場では全学応援団リーダー部から激励を受けた他、YOSAKOIソーラン部の力強く華やかな演舞を観賞した。

厚木キャンパスの学生会館は、平成27年9月に完成したばかり。地上4階地下1階延べ床面積4440平方メートルのおしゃれなビル。「農舞台」というイメージワードを基に農業のステージ、学びのステージ、活動のステージを表現、農友会やサークルの課外活動の拠点とし活用されている。

懇親会会場となった学生会館1階のアグリキッチンでは、学生が収穫した食材を調理し、食べることができるスペース。授業、課外活動、収穫祭にも利用し、「食と農」の在り方を体感・学習できる場となっている。

農学部の教職員がセッとした懇親会には伊勢原農場で取れたミニトマト6種類、新タマネギ、紫タマネギ、キュウリなどの野菜が提供された。また、校友が経営する酒蔵が造る神奈川県の地酒「松みどり」「天青」「丹沢山」が並び参加した代議員らを楽しませた。

最後に全学応援団のリーダーで参加者全員で学歌と青山ほとり（大根おどり）を高らかに合唱して散会した。



YOSAKOIソーランを鑑賞した参加者



応援団の激励を受ける代議員



学生会館アグリキッチンで乾杯

総会に参加した代議員らはその後、厚木キャンパスで懇親会に臨んだ。会場は平成27年に完成したばかりの学生会館。参加者は、変わるキャンパスを目の当たりにして感心していた。

母校は皆さまのご案内の通り、わが国の将来を見据えた学部、学科の改組、教育の充実や学生支援の強化、社会貢献への展開など積極的に取り組んでいるところであります。入学志願者や就職率、研究室活動などを拝見しておりますとまさに順調な歩みを続けております。校友会といったしましても、母校のこの輝かしい発展の歴史と実績を踏まえ、17万人と なった校友ともども、大学のさらなる発展に向かって一層の支援、協力をしてかなければならない と思っています。

ここでいくつかご報告いたします。一つ目は125周年記念事業で計画されている国際センター建設資金への募金です。3月末の全体募金実績は3億9000万 となっております。

二つ目は、地域後継者推薦入試についてであります。平成29年度入試からは、推薦条件の一部に変更がありました。校友会とい

しましては、与えられた制度の枠組みの中で、大学にご協力申し上げるとの基本的考え方で、本年度も学生の推薦を賜りたいと思っています。

三つ目は、昨年9月23日に開催しました世界大会であります。この世界大会の開催は、校友会史上初めてのものであり、学校法人・大学をはじめ、また多方面から多大のご支援と協力を頂き、皆さまご案内の通り盛大に開催されました。心よりお礼申し上げます。

四つ目は、準会員である在学生への支援であります。今後とも支援の在り方を検討しつつ、課外活動の応援など、校友会を理解していただける活動を行っていく予定であります。箱根駅伝に代表される農大スポーツの強化については、全国の多くの支部から強い要望があり、2月の支部長会議では、大学から心強いご決意の回答を得たところであります。

五つ目は、情報発信の強化です。大学および校友会の現状などを校友に知らせる活動は、非常に重要な校友会活動であります。今後とも、校友会ニュースやホームページで、この情報発信の強化に取り組んでいきたいと思っています。

この厚木キャンパスは、平成10年に農学部が移転をして18年が経過したところです。その後、少しずつキャンパス整備が進みました。厚木キャンパスは従来は農場でしたがその農場は厚木から伊勢原の方に移り一体的に運営されています。昨年夏には学生会館が落成しました。東京農業大学はそれぞれの時代の背景に沿って人材を養成し、そして脈々と125周年をつないできました。

さて、学校法人をめぐる環境を含めてお話をさせていただきます。東京農大はこの10数年、社会状況が大きく変わりつつあるということを踏まえて学部学科の改組を休むことなく続けてきました。基盤となる学部はしっかりと維持しながら、

「人材を輩出すること社会、地域に貢献していくことが大事だ」と思っています。

ただ文科省は地方の要請を受けて、東京23区内の学部定員増はさせない方針です。学部新設も定員以内でということです。しかしながらわれわれ23区の世田谷にある大学としては、先を見てこういう展開をする

か、どうキャンパスを生かしていくか、さまざまことを考える中でこういうことが進められるのは少し遺憾です。地方の若い人材は刺激を受けて、大海を見て「人物を畑に還（かえ）す」ということで、地方に戻すことだろうと思います。

われわれは東京農業大学の他、東京情報大学、第一高等学校から第三高等学校までの中等教育を扱っています。情報大学については看護学部を設置しました。第一高等学校、第三高等学校には、それぞれ中学を設置したところです。地域から信頼される学校とするため地域の校友の方にもお力添えを頂きたいと思っています。

学校法人並びに東京農業大学の発展に校友の皆さまのご協力のほどお願い申し上げます。

今年度の就職率は96%弱です。昨年度より数パーセントアップしました。学生が行きたい会社100というのが新聞に出ていました。キャリアセンターで調べたところ、100社のうち過去5年間で97社に農大生が入っています。いろいろな会社から求人が来るというのも東京農業大学の間口の広さ、それから卒業生の社会での活躍が評価をされていると自負している次第です。卒業生の皆さんの活躍のおかげだと、ここに改めてお礼申し上げます。

地理的条件、環境条件の違う3キャンパスで農学領域の進化を図り、また東京農業大学の評価を高めていきます。これからも今まで以上に本学へのご支援、ご声援をお願いします。

平成28年度 事業活動実績(抜粋)	平成29年度 事業計画(抜粋)
1.会員及び準会員の状況 正会員及び準会員の状況は次の通り。 正会員 16万6,350人(平成29年2月現在) 前年同期 16万2955人 準会員 1万2,742人(平成29年2月現在) 前年同期 1万2789人	6.調査広報、研修活動 (1)校友会ニュースおよび世田谷通信の発行 校友会ニュース第119号(4月25日付・9万5000部)、第120号(10月25日付・9万7300部)を発行。会員に情報提供。世田谷通信第55号(8月10日付・700部)、第56号(12月27日付・500部)を発行。 (2)ホームページ情報の提供活動
2.校友会本部と支部との連携強化と支援・活性化対策 (1)都道府県支部総会などの開催 ①平成28年度支部総会が43支部で開催され、本部役職員が出席(高知県、山形県は欠席)、校友世界大会の開催、校友会活動の近況、125周年記念事業募金実績の報告とお願いなど、参加者と校友会活動の課題などについて意見交換。 ②支部教職員部会は、40支部(前年度37支部)に設置され、28支部が総会開催。 ③支部女性部は、16支部(前年度13支部)で設置され、7支部が総会開催。 (2)全国教職員部会連絡協議会総会などの開催 ①平成28年7月2日、協議会役員等約50人が参加、平成28年度協議会総会を開催。 ②総会に引き続き、公開講演会を開催。 ③東京農大教育研究フォーラムを平成28年9月24日に東京農業大学教職課程と共催。 (3)支部運営費の交付 総額587万5,300円の支部運営費を交付。 (4)熊本地震への義援金 熊本地震への義援金として熊本県支部に206万5,000円、大分県支部に10万円を贈呈。	7.準会員への支援 (1)東京農業大学農友会に対する助成金の交付 (2)東京農業大学農友会所属団体等への支援 (3)東京農業大学農友会激励懇親会の開催 (4)卒業生(新会員)への記念品の贈呈
3.「東京農業大学校友世界大会2016 in Japan」の開催 国内46支部・海外14支部の支部長・幹事長らと大学教職員など約350人を招待して、平成28年9月23日に「東京農業大学校友世界大会2016 in Japan」を開催。式典後、秋篠宮殿下をご来賓にお迎えして約450人が参加して祝賀会を開催。翌24日～25日には、海外支部参加者を中心に約130人が参加して、富士農場、伊勢原農場及び厚木キャンパスなどを視察。	8.調査広報、研修活動 (1)校友会ニュースおよび世田谷通信の発行 校友会ニュース第119号(4月25日付・9万5000部)、第120号(10月25日付・9万7300部)を発行。会員に情報提供。世田谷通信第55号(8月10日付・700部)、第56号(12月27日付・500部)を発行。 (2)ホームページ情報の提供活動
4.大学との連携強化 (1)東京農業大学創立125周年記念募金事業への支援・協力 (2)東京農業大学スポーツサポート募金への協力 (3)地域後継者推薦入試への取り組み (4)東京農大経営者フォーラム等大学行事への協力・参加	9.準会員への支援 (1)東京農業大学農友会に対する助成金の交付 (2)東京農業大学農友会所属団体等への支援 (3)東京農業大学農友会激励懇親会の開催 (4)卒業生(新会員)への記念品の贈呈
5.会員名簿の原簿整備 (1)会員名簿原簿の整備 (2)会員名簿支部別リストの配布	10.調査広報、研修活動 (1)校友会ニュースおよび世田谷通信の発行 校友会ニュース第119号(4月25日付・9万5000部)、第120号(10月25日付・9万7300部)を発行。会員に情報提供。世田谷通信第55号(8月10日付・700部)、第56号(12月27日付・500部)を発行。 (2)ホームページ情報の提供活動

地域振興と国際貢献に力

自治体、会社、団体と連携協定

J A信州うえだと 包括連携協定締結

東京農大は4月19日、長野県のJA信州うえだと包括連携協定を締結した。

協定の活動内容は①農畜産業と関連産業の活性化に向けた連携②環境保全・地域づくりに関する連携③教育・研究・文化振興に関する連携④就職支援に関する連携が主な柱。

東京農大は、学生による農業体験、販売実習や調査研究の実績に加え、農作物育成・生産に係る成分・品質・土壌などの調査・研究を遂行してきた。今後は、農作物を利用した魅力ある食品加工の研究協力、農業発展のための共同事業なども連携活動内容に加え、継続的に地域貢献に向けた取り組みを行う。

協定締結式は、世田谷キャンパス農大アカデミアセンターで行われた。JA信州うえだからは坂下隆行組合長、眞島実専務らが、東京農大からは高野克己学長、渡部俊弘副学長らが出席して協定書を締結した。



締結書を交わす高野学長（前列左）と坂下組合長（前列右）

兵庫県との 包括連携協定締結

東京農大は4月24日、兵庫県と包括連携協定を締結した。（13面参照）

ワイツマン科研、 日健と包括連携協定締結

東京農大は7月7日、イスラエル国立ワイツマン科学研究所と日健総本社と包括連携協定を締結した。微細藻類研究で国際的協力を強固にしていく。

サッポロホールディングス との包括連携協定締結

東京農大は7月31日、サッポロホールディングスと包括連携協定を締結した。

これまでサッポロビール北海道本社と生物産業学部とは、平成21年に包括連携協定を締結し、ビール原料の大麦やホップの生産・利用法や、学生の職業体験学習での協力などについて、連携をしてきた。学部から大学へ、サッポロビールからホールディングスへと、関係を拡大することで、これまで以上に学生への教育や共同研究を発展的に展開する。

連携協定締結式は世田谷キャンパス農大アカデミアセンターで行われ、農大から高野克己学長、渡部俊弘副学長、夏秋啓子副学長らが、同社からは、尾賀眞城代表取締役社長、大西恭弘コーポレートビジネス部シニアディレクター、中村

剛グループR&D本部グループ研究戦略推進部長らが出席した。



高野学長④、尾賀代表取締役社長

NPO環境修復保全機構 と包括連携協定締結

東京農大は7月27日、特定非営利活動法人環境修復保全機構（ERECON）と「持続可能な開発協力に関する包括連携協定」を締結した。協定締結式は世田谷キャンパス農大アカデミアセンターで行われ、環境修復保全機構からは三原眞智人理事長、河邊久美子理事、上野貴司理事らが、東京農大からは高野克己学長、夏秋啓子副学長、坂田洋一国際協力センター長、鈴木貢次郎国際協力センター副センター長らが出席して協定書を締結した。

協定の目的は、双方が持続可能な開発協力に資する研究、国内外の人材育成、適正技術の普及などについて連携すること。農大とERECONの主な連携実績は①持続可能な開発協力に資する研究②国内外の人材育成③適正技術の普及。

キューピーと 包括連携協定 締結

東京農大とキューピー

は8月2日、包括連携協定を締結した。

協定により両者は、食品と農業、関連産業の活性化に貢献し、食品開発、農業開発への支援を通じた国際協力活動を展開する。地球的規模での食料・環境問題の解決に貢献することが目的。また、国内外で活躍する人材の育成に努める。

協定締結式は世田谷キャンパス農大アカデミアセンターで行われ、農大からは高野克己学長、夏秋啓子副学長らが、同社は濱千代善規取締役上席執行役員研究開発本部長、久能昌朗研究開発本部技術研究所所長らが出席した。



高野学長④と濱千代取締役上席執行役員研究開発本部長

ロシア極東連邦大学と 学術交流協定締結

東京農大は8月30日、ロシアの極東連邦大学（Far Eastern Federal University、略称FEFU）と学術交流協定を締結した。

両大学は、ウラジオストク市にあるFEFU本部棟で協定締結式を行った。FEFUから、アシニモフ学長、パノフ副学長（国際担当）、ブランソ副学長（臨時代理）、プストボイト日本文科長、ホチムチェンコ医療担当副学長・兼生物医学スクール校長が出席した。東京農大から、高野克己学長、吉田穂積生物生産



アシニモフ学長と握手を交わす高野学長

学科教授、山本祐司総合研究所長・教授、坂田洋一国際協力センター長・教授、岩井慎一国際協力センター事務室長が出席した。高野学長は北海道オホーツクキャンパスと同等の緯度にあるFEFUとは、北方圏農業や海洋水産の分野での学術交流展開を期待しているとしてスピーチした。

農研機構と 包括的連携協定締結

東京農大と国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）は、9月6日に包括的連携協定を締結した。

農研機構は農業・食品産業におけるわが国最大の研究開発機関。農研機構には、東京農大卒業生41人が在籍している（6月30日現在）。両者は、これまでも共同研究や人材育成に連携してきた。協定の締結により強固に連携・協力し、わが国の農業・農村・食品産業の活性化と国民生活の向上に寄与する。

協定締結式は、世田谷キャンパス農大アカデミアセンターにて行われ、農大から高野克己学長、渡部俊弘副学長、夏秋啓子副学長らが、農研機構からは井邊時雄理事長、塩谷和正理事らが出席した。

学会賞など受賞者紹介（詳細は東京農業大学ホームページ「学術」参照）

受賞名	受賞者名	受賞内容等
第13回GISコミュニティフォーラムマップギャラリー2017 第1位 受賞	入江彰昭准教授（環境緑地学科／地域創成科学科）	「夏季の熱環境と風況解析に基づく大学キャンパスの環境評価と環境計画への応用」が評価
日本造園学会平成29年度全国大会学生公開アイデアコンペ優秀賞 受賞	岩瀬晃さん、藤田芽衣さん（ともに造園科学科3年生）、吉井信人さん（大学院造園学専攻修士課程2年生）	「藤沢の軸をデザインする ～北から南に、南から北へ～」が評価
日本造園学会 平成28年度学会賞【研究論文部門】受賞	栗野隆准教授（造園科学科）	「近代歴史的庭園の調査・保存・継承に関する一連の研究」が評価
日本土壌動物学会第40回記念大会 ポスター賞 受賞	足達太郎教授（国際農業開発学科）、田中草太教授・足達太郎教授（国際農業開発学科）・高橋知之さん・高橋千太郎さん	「東電福島第一原子力発電所事故により放出された放射性セシウムのフトミズへの移行と生物学的半減期」が評価
日本沙文学会第28回学術大会 ベストポスター賞 受賞	杉浦総一郎さん（造園学専攻博士後期課程1年）、田中聡助教（造園科学科）、水庭千鶴子准教授（同）、高橋新平教授（同）	「コウライシバ（Zoisia matrella Merr.）による塩類集積緩和効果」が評価
平成29年度 日本食品化学学会 奨励賞 受賞	煙山紀子助教（食品安全健康学科）	「マウス非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）病態にEicosapentaenoic acid（EPA）とDocosahexaenoic acid（DHA）が及ぼす異なる影響」が評価
2017年度 人間・植物関係学会賞「学術賞」 受賞	土橋豊教授（バイオセラピー学科）	「人間・植物関係学における学術と普及」が評価
平成29年度 日本食品保蔵科学会 奨励賞 受賞	野口有里紗助教（農学科）	「香気および機能性成分に着目したスイートバジルの収穫後の品質に関する研究」が評価
日本学術振興会「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」受賞	國井洋一准教授（造園科学科）	独立行政法人日本学術振興会「ひらめき☆ときめきサイエンス（研究成果の社会還元・普及事業）」への貢献が評価
36th International Society for Animal Genetics Conference (2017) ポスター賞 受賞	石毛太一郎博士研究員（生物資源ゲノム解析センター）、原ひろみ助教（畜産学科）、平野貴准教授（畜産学科）、半澤惠教授（畜産学科）	「Diversity analysis of AvBD gene region in Japanese quail.」が評価
日本食品科学工学会 奨励賞 受賞	辻井良政准教授（生物応用化学科）	米飯食味に影響を及ぼす米胚乳酵素に関する研究が評価
日本哺乳類学会2017年度大会 優秀ポスター賞 受賞	石毛太一郎博士研究員（生物資源ゲノム解析センター）、宮正樹さん（千葉県立中央博物館）、潮雅之さん（京都大学生態学研究センター）、Peter Laganさん（マレーシア・サバ州森林局）、松林尚志さん（バイオセラピー学科）	「コップ1杯の水からオランウータンを検出 -Detection of orangutans from a cup of water-」が評価
環境科学会2017年会 最優秀発表賞 富士電機賞 受賞	佐藤博紀さん（林学専攻博士前期課程2年）・橘隆一准教授・福永健司教授（森林総合科学科）	「多摩川上流域における林分構造を考慮した森林蒸発散量推定モデルの構築」が評価
環境微生物系学会合同大会2017 優秀ポスター賞 受賞	石田真由さん（醸造学専攻博士前期課程1年）	貧栄養ダム湖におけるアンモニア酸化古細菌の鉛直分布および分子系統が評価
4th International Conference on Advanced Molecular Bioscience and Biomedical Engineering (2017) Best Oral Presentation 受賞	張舜恵さん（食品栄養学専攻博士前期課程1年）、美谷島克宏准教授（食品安全健康学科）、太田毅さん（日本たばこ産業医薬総合研究所）、篠原雅巳さん（日本クレア東京AD部）、宇野絹子さん（食品栄養学専攻博士前期課程1年）、煙山紀子助教（食品安全健康学科）、中江大教授（食品安全健康学科）	「Histopathological Analysis of Young and Aged Female Spontaneously Diabetic Torii Fatty Rats」が評価
日本アミノ酸学会第11回学術大会 優秀ポスター賞 受賞	玄成秀さん（農芸化学専攻博士前期課程2年）	日本アミノ酸学会第11回学術大会において、優秀ポスター賞を受賞
日本農村生活学会第65回日本農村生活研究大会 奨励賞 受賞	上岡美保教授（国際食農科学科）	

（平成29年4月から10月末までの公表分を掲載）

平成30年度4月から6学部23学科体制に



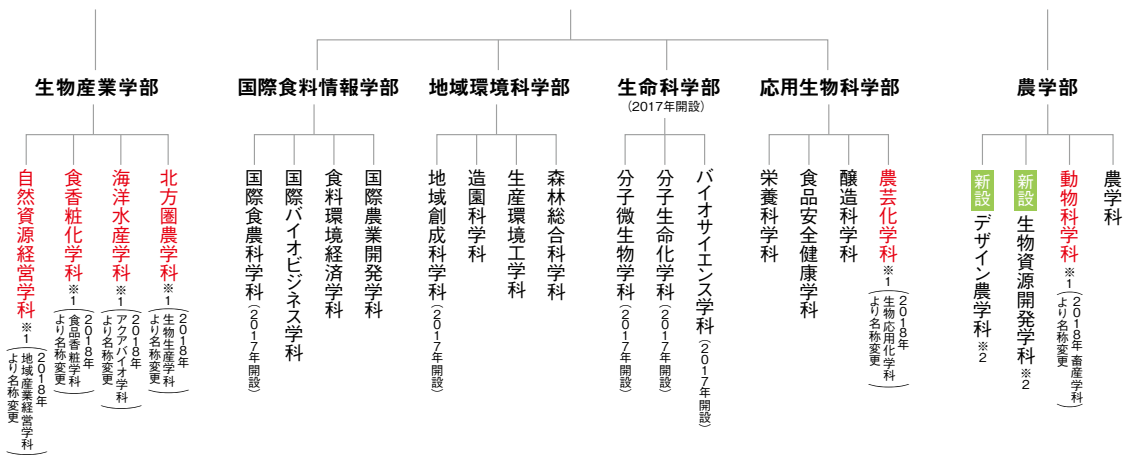
北海道
オホーツクキャンパス



世田谷キャンパス



厚木キャンパス



※1 2018年4月 名称変更。 ※2 2018年4月開設。

東京農業大学は、平成30年度から農学部を学科改組をします。また、応用生物科学部の生物応用化学科と生物産業学部を各学科の名称変更をします。

これまでは「農」の視点で生物をとらえてきましたが、今後、理学や工学、あ

るいは社会科学的な視点も意識していきます。生物の機能を人間社会に活用するための研究を一層推進、これまで各学部で研究されていた専門領域を新たな学科として打ち出します。

また、北海道オホーツクキャンパスの生物産業学部

はより北海道に溶け込む学科の名称とします。専門領域を明確にする一方で、総合的な知識の取得についても重視します。

平成30年4月からは6学部23学科体制で「農」に立脚した人間社会への貢献に努めます。

「農」の進化に、挑み続ける

2018 年度（平成 30 年度）一般入試 日程

東京農業大学【農学部／応用生物科学部／生命科学部／地域環境科学部／国際食料情報学部／生物産業学部】

	出願期間	試験日	科目	学 部	学 科	試験会場	合格発表	入学手続期間
A 日 程	Web出願 平成30年 1月4日(木) ～ 1月23日(火) 最終日は 入力 15時まで 募集は 消印有効	平成30年 2月6日(火) 平成30年 2月7日(水) 平成30年 2月8日(木)	3 科 目 型	農学部	農学科・動物科学科 生物資源開発学科・デザイン農学科	札幌・盛岡 仙台・水戸 宇都宮・高崎 大宮・松戸 津田沼 池袋・立川 町田・横浜 新潟・金沢 松本・静岡 名古屋・京都 大阪・高松 広島・福岡 宮崎 世田谷キャンパス 北海道オホーツカキャンパス	平成30年 2月16日(金) 13時	平成30年 2月16日(金) ～ 2月23日(金) 郵送のみ (消印有効)
				応用生物科学部	農芸化学科・醸造科学科 食品安全健康学科・栄養科学科			
				生命科学部	バイオサイエンス学科・分子生命化学科・分子微生物学科			
				地域環境科学部	森林総合科学科・生産環境工学科 造園科学科・地域創成科学科			
				国際食料情報学部	国際農業開発学科・食料環境経済学科 国際バイオビジネス学科・国際食農科学科			
				生物産業学部	北方園農学科・海洋水産学科 食香粧化学科・自然資源経営学科			

受験日自由選択制 試験日は3日間。全学部全学科とも3日間のうちどの日でも受験可。

同一学科複数日受験制 同じ学科を最大3日間受験可能

学部学科併願制 1日の受験で学部にとどまらず、複数学科の出願が可能。入試科目の選択Ⅱは各学科が共通して選択可能としている科目を受験することが条件（科目詳細は大学案内もしくは本学ホームページ参照）。

	出願期間	試験日	科目	学 部	学 科	試験会場	合格発表	入学手続期間
B 日 程	Web出願 平成30年 2月9日(金) ↓ 2月18日(日) 最終日は 入力 15時まで 郵送は 消印有効	平成30年 2月27日(火)	3 科 目 型	農学部	農学科・動物科学科 生物資源開発学科・デザイン農学科	札幌・仙台 水戸・高崎 大宮・松戸 津田沼・池袋 横浜・名古屋 大阪・福岡 世田谷キャンパス 厚木キャンパス 北海道オホーツクキャンパス	平成30年 3月6日(火) 13時	平成30年 3月6日(火) ↓ 3月12日(月) 郵送のみ (消印有効)
				応用生物科学部	農芸化学科・醸造科学科 食品安全健康学科・栄養科学科			
				生命科学部	バイオサイエンス学科・分子生命化学科・分子微生物学科			
				地域環境科学部	森林総合科学科・生産環境工学科 造園科学科・地域創成科学科			
				国際食料情報学部	国際農業開発学科・食料環境経済学科 国際バイオビジネス学科・国際食農科学科			
				生物産業学部	北方園農学科・海洋水産学科 食香粧化学科・自然資源経営学科			

学部内併願制 学部にこだわらず、複数学科の出願が可能。入試科目の選択Ⅱは各学科が共通して選択可能としている科目を受験することが条件（科目詳細は大学案内もしくは本学ホームページ参照）。

2018 年度（平成 30 年度）センター試験利用入試 日程

	学 部	科 目	出願期間	試験日	合格発表	入学手続期間
前期	農学部	※ 4科目型	Web出願 平成30年1月4日(木) 1月12日(金) (最終日は入力15時まで 郵送は消印有効)	センター試験 平成30年 1月13日(土) 1月14日(日)	平成30年 2月16日(金) 13時	平成30年2月16日(金) 2月23日(金) 郵送のみ(消印有効)
	応用生物科学部	3科目型				
	生命科学部					
	地域環境科学部					
後期	国際食料情報学部	3科目型	Web出願 平成30年2月16日(金) 2月23日(金) (最終日は入力15時まで 郵送は消印有効)		平成30年 3月6日(火) 13時	平成30年3月6日(火) 3月12日(月) 郵送のみ(消印有効)
	生物産業学部					

※前期日程においては、3科目型と4科目型の2方式を併用します。

お問い合わせ先 世田谷キャンパス〈応用生物科学部・生命科学部・地域環境科学部・国際食料情報学部〉
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1 入試センター TEL.03-5477-2226

厚木キャンパス〈農学部〉
〒243-0034 神奈川県厚木市船子1737 入試課 TEL.046-247-4433

北海道オホーツクキャンパス〈生物産業学部〉
〒099-2493 北海道網走市八坂196 入試課 TEL.0152-48-3814

2018 年度（平成 30 年度）推薦入試 日程

推薦入試

学 部 ・ 学 科	出願期間	試験日	試験会場	合格発表	入学手続期間
農学部 農学科 動物科学科 生物資源開発学科 デザイン農学科			厚木 キャンパス		
応用生物科学部 農芸化学科 醸造科学科 食品安全健康学科 栄養科学科					
生命科学部 バイオサイエンス学科 分子生命科学科 分子微生物学科	Web出願 平成29年 11月1日(水) ～ 11月8日(水) (最終日は入力15時まで) 郵送は消印有効)	平成29年 11月19日(日)	世田谷 キャンパス	平成29年 11月24日(金) 13時	平成29年 11月24日(金) ～ 12月8日(金) 郵送のみ (消印有効)
地域環境科学部 森林総合科学科 生産環境工学科 造園科学科 地域創成科学科					
国際食料情報学部 国際農業開発学科 食料環境経済学科 国際バイオビジネス学科 国際食農科学科					
生物産業学部 北方圏農学科 海洋水産学科 食香粧化学科 自然資源経営学科			北海道オホーツク キャンパス または世田谷 キャンパス (出願時選択)		

榎本武揚フロンティア入試

学 部	エントリーシート提出	1 次選考日	2 次選考日	合格発表	入学手続期間
生物産業学部	平成29年 7月29日(土)	平成29年 9月30日(土)	平成29年 10月14日(土)	平成29年 10月20日(金)	平成29年10月20日(金)
北方圏農学科	}				}
海洋水産学科	9月1日(金)				11月2日(木)
食糧経化学科					郵送のみ(消印有効)
自然資源経営学科					

入試制度 募集人員:生物産業学部全体で合計25名
選考方法: [1次選考]小論文、グループディスカッション [2次選考]プレゼンテーション、個人面接

自己推薦型 大自然に学ぶ北海道入試

学 部	出願期間	試験会場	試験日	合格発表	入学手続期間
生物産業学部	平成29年 11月17日(金)	世田谷キャンパス	平成29年 12月9日(土)	平成29年 12月15日(金) 13時	平成29年12月15日(金) 12月22日(金) 郵送のみ(消印有効)
北方圏農学科	11月29日(木)	北海道オホーツク キャンパス			
海洋水産学科	WEB出願(最終日入力15 時まで、郵送は消印有効)				
食畜粧化学科					
自然資源経営学科					

出願資格 1.北海道オホーツクの豊かな生物自然資源の中で学び、自分の専門性を究め、強固な人間力を高めようとする強い志のある者。
2.本学を第一志望(専願)として入学を強く希望し、かつ何事にも積極的にチャレンジする意欲旺盛な者。
3.高等学校(中等教育学校含む)を平成29年3月に卒業した者および平成30年3月卒業見込の者〔学力基準(評定平均値)は定めない〕。

選考方法 1.書類：調査書、自己推薦書
2.講義聴講後に小論文（講義45分・小論文60分800字以内）
3.面接：個人面接10～15分程度
以上の3項目で総合的に評価します。

お問い合わせ／個別訪問申し込み等 東京農業大学北海道オホーツクキャンパス
入試課 TEL.0152-48-3814

東京農大2018年度 入試情報

受験がしやすくなった 3つのポイント

①一般入試 A日程の試験会場が、17会場から 26会場へ拡大!

②一般入試 B日程で、学部・学科併願OK!

③センター試験利用入試後期日程を新設!

母校だより

大学教員の人事

(順不同・敬称略)

【平成29年4月13日】 ▼称号授与 東京農業大学名誉教授 東京農業大学名誉教授 東京農業大学名誉教授 【平成29年4月18日】 ▼称号授与 東京農業大学名誉教授 東京農業大学名誉教授	長澤 真史 美土路知之 国際食料情報学部 国際食農科学科 生物産業学部 アカババイオ科学科 生物産業学部食品香粧学科	吉川 博文 鈴木 昌治
東京農業大学名誉教授 東京農業大学名誉教授 東京農業大学名誉教授 【平成29年10月1日】 ▼教授昇格 国際食料情報学部 国際食農科学科 生物産業学部 アカババイオ科学科 生物産業学部食品香粧学科	中村 好男 麻生 恵 山崎 文男 富浦 理恵 松原 創 南 和広	

高野克己学長が2期目のかじ取り



東京農業大学では、学長の任期満了(平成29年7月4日)に伴う学長選挙が5月29日・30日に行われ、現職の高野克己(たかの・かつみ)学長が選出されました。

就任は平成29年7月5日、任期は平成33年3月31日までです。第12代東京農業大学学長として引き続き大学運営の指揮を執ります。

高野学長は、昭和52年東京

農業大学農学部農芸化学科を卒業。同大学院修士課程修了後、本学助手に採用。昭和60年農学博士。

平成10年に同応用生物科学部生物応用化学科教授。平成20年同応用生物科学部部長。平成21年同大学・同短期大学部副学長。平成25年同大学・同短期大学部学長(現在に至る)。

昭和28年生まれ63歳。専門分野は農芸化学、食品化学。

数字で見る農大

専門分野で強いブランド力
求人は全国平均の3倍

専門分野を深く学べる上に、のんびりした校風。求人件数も多く、中でも食品会社に近い——東京農大に関わるさまざまな数字を見るとこんなイメージが浮かんでくる。母校の評判が気になる校友に

とってちょっとうれしくなる数字も。

まずは全国777大学のブランド力調査(「進学ブランド力調査2017」リクルート進学総研Ⅱ関東エリア)を見ると、「専門分野を深く学べる」大学

東京農大 受験者数

農学系大学志願者の

約4人に1人



東京農大志願者数 2万9639人 / 農学系大学志願者数 12万8875人(約23%)

農業系
私立大学志願者のうち

約3人に1人



東京農大志願者数 2万9639人 / 農業系私立大学志願者数 9万8711人(約30%)

親子三代卒業生特別表彰者5組が決定

収穫祭に合わせ11月
ホームカミングデー

例年6月に開催されていたホームカミングデーは、今年は「創立記念を祝う会並びに第17回東京農大ホームカミングデー」と冠を変えて、収穫祭の11月3日、世田谷キャンパス百周年記念講堂で開催され、校友会の千葉県支部・福井県支部・東京都支部・長野県支部・茨城県支部からの推薦があった一覧表に記載された親子三代特別表彰者5組が選考のうえ決定した。高野学長から表彰される予定だ。

平成29年度第17回ホームカミングデー親子三代特別表彰者一覧

代目	氏名	卒年	学科	住所
1	露崎 董(物故者)	昭06	専門部農学科	
3	高橋 啓太郎	昭61	農学部栄養学科栄養学専攻	千葉県
4	高橋 昌也	現4年	地域環境科学部造園科学科	東京都
1	長尾 一雄(物故者)	昭15	専門部農学科	
2	藤本 博文(長尾)	昭46	農学部林学科	福井県
3	青池 知美(藤本)	平10	農学部栄養学科管理栄養士専攻	福井県
3	藤本 佳子	平14	応用生物科学部栄養科学科管理栄養士専攻	福井県
3	藤本 貴久	平17	農学部農業工学科	福井県
1	秋丸 和夫(物故者)	昭22	専門部農業土木学科	
2	秋丸 明文	昭53	農学部農業経済学科	東京都
3	秋丸 剛志	平21	国際食料情報学部食料環境経済学科	東京都
1	竹内 正敏(物故者)	昭29	農学部農業経済学科	
2	竹内 正彦	昭59	農学部農芸化学科	長野県
2	竹内 正剛	昭62	農学部造園学科	埼玉県
3	竹内 開地	平29	国際食料情報学部食料環境経済学科	埼玉県
1	兼平 尚武(物故者)	昭32	農学部醸造学科	
2	兼平 理香子	昭59	短期大学醸造科	茨城県
3	兼平 貴之	現4年	応用生物科学部醸造科学科	茨城県

実践総合農学会は7月8日、世田谷キャンパスの横井講堂で「日本のコメ政策をどうする」というシンポジウムを開いた。これは平成30年から米政策が大きく転換され、食料安全保障や地域経済への影響など各方面からその方向性がどうなるか、関心や懸念が寄せられているため。

同シンポジウムは、平成30年に米生産調整政策が廃止され、また国際的には一層の貿易自由化が

実践総合農学会の三輪 睿太郎会長、東京農業大学の高野克己学長があいさつ。農林水産省農産部

米生産農家、面川義明氏「稲作農家の受け止め方と意見」として第1報告。第2報告は「農協の

について東京農大農学部畜産学科の信岡誠治教授、第4報告は「コメの消費拡大の技術開発(米粉)」について東京農大食品加工技術センターの野口智弘教授がそれぞれ行った。

その後、東京農大客員教授で農業ジャーナリストの中村靖彦氏を座長に総合討議した。

このことから、平成29年の入試を見ると大学通信情報調査部によると、全国777大学のうち東京農大の志願者数は3万4113人で26位という好位置を占めている。志願者増数は5979人と全国10位だ。また、平成27年度文部科学省学校基本調査によれば、農学系大学の志願者の23%、つまり4人に1人が東京農大を志願している。農業系私立大学の志願者のうち30%、つまり3人に1人が東京農大を志願している。

東京農大生の就職の状況を数字で見ると、一人当たりの求人件数は全国平均の3倍になる。これはリクルートホールディングスリクルートワークス研究所の「大卒求人倍率調査(2016年卒)」によるもの。全国の平均求人倍率は1.73倍に対して、東京農大は5.3倍になっている。

中でも食品会社に強い。大学通信調査情報部によると上場企業(食品26社)の実就職ランキングでは、私立大学でトップ、大学全体でも3位の位置を占めている。

米政策大転換期に
将来を見据えシンポ

将来を見据えシンポ

オープンキャンパスで農大の魅力をアピール

Campus now

世田谷キャンパス

学科のカラー前面アピール

世田谷キャンパスでは8月5日(土)、6日(日)の二日間、わたり、本学最大の受験生向けイベントであるオープンキャンパスが開催された。学生スタッフ・教職員一同が迎える中、来場者は例年のように約1万人にのぼり、大いにぎわいを見せた。

主なプログラムとしては、各学科の担当教員による30分の「模擬講義」や、食品コースとバイオコースを体験する「分野別模擬実習」、一般入試の説明や推薦入試合格者の体験談が聴ける「入試対策講座」、各学科が学科のカラーを前面に出して、来場者に学科紹介をする「学科別ナビ体験」などが実施された。中でも「学科別ナビ体験」は、それぞれの学科がその特色を前面に出して来場者にアピール



学科の特色を存分にうかがえる学科別ナビ体験



大学の授業をひとあし早く体験できる模擬講義

厚木キャンパス

新生・農学部を先取り体験!!



研究内容を展示した学科別ナビ体験

厚木キャンパスでは、8月5日(土)、6日(日)にオープンキャンパスを開催し、2日間で約2700人が来場した。今回のオープンキャンパスは、平成30年度から農学部が4学科体制に変わることもあり、プログラム内容を大きく変更した。「学科別ナビ体験」として、農学科、動物科学科、生物資源開発学科、デザイン農学科の4学科がそれぞれ一教室で学科紹介を行った。展示内容について、教員や学生が来場者に説明を行い、学科によっては、研究室に案内するツアーも実施した。実際に学生が学んでいる環境や施設を直接見学できる良い機会となった。

昨年引き続き伊勢原農場見学バスツアー



学科のマナビにつながる模擬講義

北海道オホーツクキャンパス

地域のフィードバックがキャンパス



全国各地から北海道オホーツクに集う参加者

北海道オホーツクキャンパスでは7月29日(土)、30日(日)にオープンキャンパス、8月19日(土)、26日(土)にキャンパスツアーを開催し、全国から多くの受験生や保護者を迎えた。平成30年4月の生物産業学部創設30年の節目に、生物生産学科を「北方圏農学科」へ、アクアバイオ学科を「海洋水産学科」へ、食品香粧学科を「食香粧化学科」へ、地域産業経営学科を「自然資源経営学科」へと名称変更することに先立ち、生物産業学部のさらなる進化と4学科の学科横断的なつながりをアピールした。また、各学科のマナビ体験では鳥の骨格標本作りやサイレージの品質評価試験、食品と化粧品をつなぐ香りの効果、環境安全とツーリズムを体験するパ

スツアー、オホーツク臨海研究センターでの実験など、キャンパス内外の施設を活用した特徴ある学びの場を紹介し、地域の全てが学生の活躍のフィールドであり、イベント参加者にオホーツクの魅力の一端を披露した。

昼食は、NPO法人創生塾の協力により「オホーツクスペシャルランチ」を提供、オホーツク地域の食の魅力を紹介した。イベント最後の学外バスツアーでは、恒例となつた「青山ほどり」でお見送り、学生と教職員が一丸となつてのおもてなしを実施した。



学生と教職員が一丸となりイベントを盛り上げた



企画展示

農民芸術 編まれた民具

今回の企画展示は「農民芸術」と題してはみたものの、当博物館は、母体である大学とともにも農学の殿堂と自負こそすれ、芸術とは縁が遠い存在である。さらに、副題に「編まれた民具」とあるように、にわらやスゲ、またかやなどで編まれた民具、しかも生活の道具として十二分に使われ、くたびれ、汚れた様子でかろうじて残っていた民具の類を「芸術」として見ようというのである。かなり無謀な試みといつてよいだろう。そのような思いにさいなまれながらも、どうにか始めることができた展示である。

企画から展示内容の具体化までを手掛け、また展示案内の文責も兼ねた学術情報課程のK教授が、やはり

企画展示

国際食料情報学部4学科合同展

上記の2企画展示とも開催期間は、平成29年10月25日(水)～平成30年3月11日(日)になります。



もう一つの企画展示「国際食料情報学部4学科合同展」では、自然科学系の本学の中で社会科学系の色が濃い同僚部が、日本をはじめ世界の社会システムを研究する中から、世界のさまざまな社会が「つながる」ことの問題を整理し提起した展示である。

つながることで多様性や個性が失われ、均一化・同質化が進み、やがてそれへの反発が生まれ、多様性や個性への回帰運動が生まれる。だからといって、つながることは決して悪いことではなく、大きなメリットもある。このような複雑な問題の解決の道筋を整理し、自ら検証し紹介した展示といつていいだろう。

国際食料情報学部は平成29年度から1学科を増やして4学科体制となった。今後の同僚部の活躍を期待していたが、今度の展示をご覧いただければ幸いである。



編成全車両で魅力をPR

山手線農大ずくし

東京農業大学は8月16(31日、昨年に続き未来に向けて突き進む続ける東京農大をJR「山手線」に乗せて発信した。

車両E231系1編成(11両)の車内広告は全て農大広告。研究トピックに焦点を当てたポスターや動画を掲載し、「NO LIMIT, NO BORDER. TOKYO NODAI」といったコピーが並びおしゃべりな広告が、乗客の目を引き付けた。

また、テレビ局番組プロデューサー、証券会社トレイダー、洗濯用洗剤メーカー企画開発、航空会社キャビンアテンダントといった卒業生の多彩な進路もPRした。

人間の未来に活かしていく。」「無菌シルクの生産技術で、永遠の愛を誓う。」「肥満と貧困。異なる問題の解決を、パンノキの実から導き出す。」「芝草へ科学的にアプローチ。スポーツの進化を足元から支える。」「生命のチカラを遺伝子から解明し、『生きる』に貢献する。」「と、異なる問題の答えを、パンノキの実から導き出す。」「

台湾・国立中興大学で第17回世界学生サミット

第17回世界学生サミット (ISS) が、2017年9月25日、26日の2日間にわたって台湾国立中興大学で開催された。

世界学生サミットは、東京農業大学が中心となり、海外協定校をはじめとして各国から学生、教員が集まり、食料、農業、環境及び教育問題を議論し、日頃の学習成果を発表する場。

この学生サミットは、学生自らがテーマを決めて企画し、運営、実行するという特徴がある。今回は、本学の協定校である台湾・国立中興大学 (NCHU) と東京農業大学で共同開催した。本学から高野克己学長、夏秋啓子副学長をはじめとした教職員に加え、世界学生フォーラムメンバー (ISF) が参加した。ISFのメンバーと参加学生は、早朝から夜遅くまでNCHUの運営スタッフと議論を重ねて準備を行った。

本年は、「持続可能な農業の発展のため、知識と資源へのより幅広いアクセスを通じた不平等の解決に動む活動」をテーマとして食料、農業、環境及び教育に関する諸問題と対策について白熱した議論を展開した。

海外からは米国、タンザニア、カナダ、中国、台湾、インドネシア、ペルー、モンゴル、フィリピン、ベトナム、ブラジル、メキシコ、マレーシア、オランダ、カンボジア、イギリス、ジブチ、スリランカ、オーストラリア、韓国、ドイツ、21カ国30大学が参加した。

開催当日は、台中市のLin 副市長、高野学長、NCHU Shieu学長があいさつ。ISSを支援している教育後援会の風間隆之会長、小林正樹・手島秀樹・瀧賢一・吹田孝雄の4副会長、および日台交流



世界学生サミットを成功させた学生ら

を長年推進している豊原秀和元副学長の紹介があった。

その後、夏秋副学長とNCHU Yeh教授の基調講演が行われ、本学からは、農学部農学科3年の及川恵さんが、「Increasing Rice Demand and Consumption in Japan Through Students Taking Action」について発表した。

第17回世界学生サミットの総括として、総合討論を行った結果、第18回世界学生サミットのテーマは「Students Taking Action to Increase Youth Involvement in Sustainable Agriculture and to Close the Gap Between Actors in the Food System」に決定した。来年度は、東京農業大学で開催する予定。

世界学生サミットを運営している「世界学生フォーラム」は、各国の食・農・環境に強い関心を持つ学生たちのネットワークで、人類共通の課題の解決に向けて、学生間の情報交換・共同討議などを推進する国際組織。本学在学生在で食・農・環境に関心があれば、誰でも委員になり活動することができる。現在、本学では約80人の学生メンバーが活動している。



発表する及川さん



応援団リーダー部員と協力した秋田県支部員ら(道の駅十文字で)

水害見舞いで演舞披露 大潟村校友が全面協力

応援団が秋田県で合宿



佐竹知事(中央)、高橋大潟村長(左から4人目)、小平団長(右から4人目)、中田支部長(右)

全学応援団リーダー部24名は8月24日から31日までの8日間、平成29年夏合宿を秋田県大潟村で行った。

この合宿は、秋田県支部の中田雅俊支部長(昭46林)・佐々木仁副支部長(昭42造)ら秋田県校友会が誘致して実現した。合宿所確保や食事、練習場などへの移動については大潟村の高橋浩人村長(昭58拓)ら大潟村在住の校友55人が全面協力した。

27日には横手市の「道の駅十文字」、29日には秋田県庁前、30日には「道の駅大潟」大潟村小中学校で、農大名物青山ほとり(大根おどり)を披露。この様子はテレビや新聞などのメディアで大きく取り上げられた。

県庁に秋田県の佐竹知事を表敬訪問した際に、小平達也団長(経4)は「今回の合宿やリーダー公開については、7月22日からの記録的な大雨により、大仙市、仙北市、横手市、秋田市など秋田県では各地で住宅の全半壊・浸水被害が発生した。この豪雨災害の復興のためにわれわれの応援活動で被災者を少しでも元気づけられればという思いで行った」とあいさつした。

また、小平団長は「箱根駅伝予選会応援や収穫祭のリーダー公開で応援強化が目的であったが、今回は集客も多く合宿は成功だった。多くの校友会の先輩方の支援・協力で感謝したい」と語った。

平成 29 年 9 月末募金実績	
全体募金件数	4,855 件
全体募金金額	407,578,149 円
(うち校友関係)	260,793,834 円
47都道府県支部	195,932,757 円
8海外支部	14,733,215 円
校友関係団体	50,127,862 円

125周年記念事業資金募金実績

引き続き協力を

平成25年度からスタートいたしました「創立125周年記念事業資金募金(東京農大国際センター建設事業資金募金)」につきましては、平成29年9月末までの支部3621件。海外からは台湾、ブラジル、パラグアイ、アメリカ、ミャンマー、アルゼンチン、カナダ、タイ、インドネシアの9支部41件、校友関係団体17件から募金を賜りました。

なお大学では、この募金活動を平成30年3月末まで継続中ですので、本紙折り込みの「募金のお願い・振込用紙」により引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

経営者会議が異業種交流会

第15回東京農大経営者会議異業種交流会は、平成29年6月26日(月)～28日(水)の2泊3日の日程で総勢53名が参加しました。

今回は大分県を巡り、初日は三和酒類株式会社本社工場見学、2日目は宇佐神宮参拝と安心院葡萄酒工房見学、3日目はいちご日田蒸留所見学と木の花ガルドン視察という行程でした。

平成12年度経営者大賞を受賞された大分県宇佐市の西太一郎氏(三和酒類株式会社取締役名誉会長、昭和35年醸造学科卒業)の企業を訪問した工場見学では、農大卒業後の創業から今日までどのように経営に取り組んでこられたか、成功までの挑戦秘話やビジネス哲学を語っていただきました。「品質第一」の基本理念を伺う貴重な機会となりました。また宿泊先では、あすみ農園の村上明日美氏(平成24年国際バイオビジネス学科卒業)より「もっと農業の魅力伝えたい!農業女子の挑戦」というテーマの講演をいただきます

した。参加者は情熱あるお話しに感銘を受け熱心に聴き入っており、有意義な講演会となりました。

3日目の見学地「木の花ガルドン」は日田市大山の農林産物や農産物加工直売所、農民レストランを経営しています。レストランで

は朝取り野菜や山菜を用いた70～80種類のバイキング全て農家の主婦手作り料理を堪能しました。「梅栗植えてハワイに行こう」をスローガンに町おこしに成功した大分大山町農協の矢羽田正豪組合長のリーダーシップと講演にも感銘しました。村民の75%がパスポートを持っているそうです。

高野克己学長を囲む懇親会では、地元の校友会、経営者会議会員、大学関係者が強い連携のもと、大学の発展と学生の支援に全力を尽くすことへの結束がなされました。

なお、お忙しい時期にもかかわらず講演会に参加して頂いた校友会大分県支部の加藤早苗支部長をはじめ、大分県校友会支部の皆さまに感謝申し上げます。

人生懸けた挑戦を掲載

『経営者の群像』1巻を出版

東京農大経営者会議はこのほど『東京農大経営者の群像』第1巻を出版した。第4巻まで順次出版していく予定。発行は東京農業大学校友会、販売は(株)農大常磐松が行う。

出版に当たり、編集委員長を務めた門間敏幸東京農業大学名誉教授は次のように談話を寄せている。

本書出版計画では、100人に近い東京農大経営者会議の方々を懸けた挑戦を多くの皆さまに知っていただき、東京農大の実学教育の成果を広く社会に

発信することを

目指した。第1巻で取り上げられている30人の経営者の方々の歩みをみると、波瀾(はらん)万丈と呼ぶにふさわしい企業・

経営へのチャレンジと素晴らしい人生ドラマがある。

そのチャレンジには、実学に裏付けされた経営哲学・理念があり、何よりも農業や伝統産業への、そして母校・東京農大に対する熱い思いがある。



ぜひ、お手に取りお読みいただければ、皆さまの人生・経営の今後の挑戦のための、また学生さんには社会に出るための勉強や心構えを学ぶための、座右の書としてきっと活用いただけると思います。

経営者大賞8人決まる

東京農大経営者フォーラム2017の経営者大賞が決まった。

今年は経営者大賞候補者の推薦は10件(9社)あった。審査委員

会委員による書類審査・現地調査の結果、次の方々が各賞を受賞する。表彰式は11月24日のフォーラムで行われる。

東京農大経営者大賞

及川 智正 氏 株式会社農業総合研究所 代表取締役社長(平9経)

越智 浩 氏 石鎚酒造株式会社 専務取締役(平5醸)

越智 稔 氏 石鎚酒造株式会社 取締役製造部長(平9醸)

栗本めぐみ 氏 KURI BERRYFARM 代表取締役(平14企)

澄川 宜史 氏 株式会社澄川酒造場 代表取締役社長(平10醸)

高塚 敏 氏 株式会社地域環境計画 代表取締役(昭57造、平21院環博)

中村 隆宣 氏 有限会社安曇野ファミリー農産 代表取締役(昭57農)

黛 紀昭 氏 有限会社妙義ナバファーム 代表取締役(平5林)

東京農大経営者賞

浅井信太郎 氏 株式会社まるやハ丁目噌 代表取締役社長(昭46化)

東京農大経営特別賞

泉保 繁美 氏 税理士法人共同経営センター 代表社員税理士(昭44経、昭46院経修)

大分で三和酒類工場など見学

東京農大経営者会議会長 新田 恭一郎



三和酒類の工場見学で説明する西名誉会長



異業種交流会に参加した農大経営者会議会員ら(別府湾ロイヤルホテルで)

東京農大経営者会議からのお知らせ

東京農大経営者会議とは

2000年の東京農大創立110年に「国際バイオビジネス学科」が新設され、それを記念して「東京農大経営者フォーラム」が創設されました。このフォーラムでは、多くの卒業生の中で「優れた経営者として活躍している方々がどのようにして企業経営の成功者になられたのか、経営者の思考と手法に学ぶ」という意図で、以後、毎年、優れた経営者を選び、東京農業大学学長が経営者大賞、経営者賞、技能賞を贈りその功績を表彰しています。

2000年の第1回に受賞された方々が母体となって、東京農大経営者会議を発足しました。当会議は東京農業大学と東京農業大学短期大学の卒業生の中で企業活動している経営者と、フォーラムでの受賞者で組織運営しております。活動内容は、経営者のネットワーク作り、異業種交流、各地域圏交流など。そして経営者フォーラムの経営者大賞、経営者賞候補者の推薦などを行い、母校・東京農業大学の発展に寄与することを目的としています。

東京農大経営者会議では会員を募集しています

東京農大経営者会議では、現在、会員を募集しています。

卒業生校友の中で、農林水産業はもとより食品産業などの企業経営をされている方々を対象に、自薦・他薦を問わず募集しています。校友会支部にご推薦いただきたくお願いします。

東京農大経営者会議では、会員増強を図り、事業経営の視野を広げ異業種の成功事例を学ぶことで、お互いに研さんし、校友・学生にも役立つ会議として発展させたいと考えております。

2020年までに会員500人を目標として、各ブロックでの経営者地域フォーラムの開催(交流と啓発)も検討していますので、全国の校友会支部の全面的なご支援ご協力をお願いします。

東京農大経営者会議のHPをご覧ください

校友会本部のご協力をいただき、校友会ホームページのバナーに東京農大経営者会議のホームページを立ち上げました。会則、役員名簿、会員の状況、異業種交流会の開催状況、入会申込書などの情報を掲載しています。

研究室紹介

Introduction

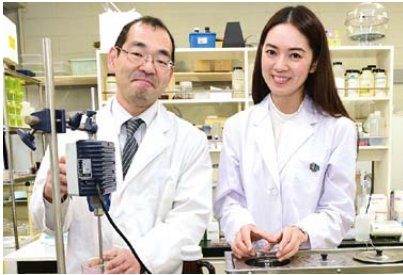
>>>>>

33

北海道の生物資源の機能性を生かした化粧品の開発

生物産業学部食香粧化学科(平成30年度食品香粧学科から名称変更予定)化粧品の化学研究室

教授 丹羽 光一



化粧品を試作する小西さやか客員准教授と私

生物産業学部食品香粧学科は、平成30年4月から食香粧化学科に名称を変更する。これに伴い、学科では化粧品に関する教育研究をより充実させるため、「化粧品の化学研究室」を新設する。この新しい研究室の、北海道でしかできない教育研究活動について紹介する。

QOLの向上をめざして

人が「健康で文化的な」生活を営むためには、衣食住の整備だけではなく、生活の質、すなわちQOLの充実が欠かせない。化粧品は、このQOLの充実に欠かせないアイテムである。化粧品というと、どうしても女性が容姿を際立たせるためのメーキャップ化粧품을連想するが、シャンプー、石鹸やハンドクリームなども化粧品であり、「35億」の男性も化粧品と無関係ではない。化粧品は直接体に触れるものであり、その機能性と安全性は、科学的に証明されることが必要である。北海道で化粧品を研究することの強みは、「生物資源」の豊富さである。「化粧品の化学研究室」では、北海道の生物資源の化粧品素材としての機能性を明らかにするとともに、それらを利用した化粧品の製造法について研究を行う。

エミューオイルと地域活性化

われわれはこれまでも、オホーツクならではの化粧品素材の研究を行ってきた。その一つがエミューオイルである。エミューはオーストラリア原産の走鳥類で、ダチョウの次に大きい鳥類である。生物産業学部では、地域活性化のために20年ほど前からエミューの飼育と繁殖に取り組んできた。オーストラリアの先住民民族アボリジニは、古くからエミューの皮下脂肪を傷の手当に利用してきた。エミューの皮下脂肪を精製したエミューオイルは保湿効果と皮膚浸透性が高く、化粧品素材として優れていると考えられるが、科学的な検証はほとんどされていない。われわれは、エミューオイルが白血球の活性を抑制して抗炎症効果を発揮すること、メラニンの産生を抑制するため美白化粧品の素材となり得ることを明らかにした。既に、企業と協力してエミューオイルを用いた化粧品を開発しているが、このようなエビデンスを積み重ね、さらに付加価値の高い化粧品を開発してゆくつもりである。



エミューオイル

ハマナス、ハッカ、アザラシ…豊富なオホーツクの生物資源



化粧品業界では、安全で付加価値の高い化粧品素材が常に模索されている。北海道オホーツクは、いまだ利用されていない生物資源の宝庫である。たとえばわれわれが注目して研究対象としているものに、ハマナスがある。ハマナスは歌にも歌われたバラ科の植物で、その花卉の香りは優雅で、化粧品や香水に利用されているが、実や根などを用いた化粧品は少ない。最近、ハマナスの根の抽出物に抗炎症効果があることが報告された。現在われわれは企業と連携してハマナスをほ場(畑)で栽培している。花卉、実、根の機能性を調べ、それらを利用した化粧品の開発に取り組む予定である。その他、ハッカやマタタビなどの植物資源、駆除されたアザラシやエゾシカの脂肪など、オホーツクは研究対象の生物資源に事欠かない。「生きた素材」が身近にあることが、この研究室の強みである。

産業界と連携した化粧品教育

化粧品科学は、化粧品企業を中心とした産業界によって発展してきた。そこで、当学科では産業界の方々による実践的な化粧品教育を行っている。例えば学科では、毎年大手化粧品企業に寄付講座を開講していただいております、実際に企業で行われている化粧品の製造、



企業の寄付講座で接客・メーキャップの指導を受けているところ

研究開発、接客などの実態を学生に教育している。また、日本化粧品検定協会の代表理事である小西さやか氏は、当学科の客員准教授であり、化粧品のトレンドや使用法について講義をしていただいている。このような教育を受けた上で、さらに専門的な化粧の研究を志す学生が、化粧品の化学研究室に所属することになる。繰り返すが当研究室の強みは「生きた素材」が身近にあることである。素材の大切さを理解した卒業生が、化粧品業界に多数進出することを願っている。

福島県産農産物のマーケティング・リサーチを通じた震災復興

東日本支援プロジェクトの調査研究成果

国際食料情報学部国際バイオビジネス学科准教授 半杭真一

東日本支援プロジェクトの関わり

私とこのプロジェクトの関わりは、農大に移った昨年度からであり今年度が2年目である。農大に移ったと書いたが、私は2015年まで福島県職員として働いており、震災対応も公務員の立場で経験し、東日本支援プロジェクトの立ち上げ時には協力機関のスタッフの立場であった。震災後、

たくさんの研究機関が福島

県を訪れたが、東京農大方式として確立した技術体系によって作付けを再開できた経営は多く、農大の取り組みは優れたものだと考えている。

現在、東日本支援プロジェクトは新たなフェーズを迎えている。消費者庁によれば福島県産農産物を消費者の2割弱が忌避しているとされる。原発事故の健康影響については、今年日本学術会議から公表された報告書「子どもの放射線被

ばくの影響と今後の課題」が、チェルノブイリ原発事故よりも被ばく量ははるかに低く、特に不安の多い子どもへの影響について「福島第1原発事故による胎児への影響はない」としており「科学的には決着がついたと認識されている」と踏み込んでいっている。そうした科学的な事実に基づいた評価と一般的な認識との間のギャップをどう埋めるか、ということが現在の課題となっているといえるだろう。



全量全袋検査を実施して販売されている福島県産米

消費者リサーチの結果

福島県産農産物の買い控えについては、さまざまな調査がなされてきている。先述の消費者庁の調査は「風評被害に関する意識調査」として、避けたい産地に福島県を選んだ割合に基づいているため、「風評被害」に関する調査であることによるバイアスの存在が前提とされること、具体的な品目や産地以外の商品属性を考慮していない点に留意する必要がある。そこで、具体的な品目を用いて、価格などの商品属性を用いた場合の選択行動はどうなるのか、また、震災の記憶も風化が進むなか、調査にあたって震災に関する

調査であることを意識させるかどうかで、消費者の反応がどのように変化するかという点に着目して消費者リサーチを実施した。実施時期は2016年の9月であり、調査地域は福島県と首都圏、関西の3地域である。消費者の選択行動は、具体的な品目としてキュウリとトマトとし、福島県、隣接地、遠隔地の三つの産地の選択肢について、価格と栽培方法を組み合わせた中から一つ選ぶ方法で行った。この選択行動を、サン



収穫祭で「そうま復興米」を販売する学生

ブルを二分し、選択の前に震災関係の調査である旨を示す群と選択の後で示す群として分析した。結果として、震災関係の調査である旨を産地選択に先立って示した場合、キュウリにおいては震災関係の調査である旨を後で示した場合とは選

択に差が見られた。福島県の選択割合に変化はないものの、隣接の産地として設定した群馬県の選択割合がわずかに低くなっていたのである。キュウリの産地選択においては、震災を意識させることによって、隣接地も重要なことと考えている。農産物のマーケティングは、社会科学の一分野であるのと同時に、実務的な側面も有する。研究成果をさまざまな媒体で発信していくこともまた、プロジェクトの役割の一つである。

これからの研究と成果の発信

東日本支援プロジェクトで今年から新たに取り組んでいるのが営農再開モデルの調査である。除染が進み、避難指示の解除が行われたことにより、中断した営農を再開する動きが各地で見られるが、避難経験や作付

け制限の有無、新たな品目や販売先の導入など、営農再開には多様な課題が横たわっている。こうした課題に答えることもまた新たなフェーズを迎えたプロジェクトの役割である。さらに、研究成果の発信も重要なことと考えている。農産物のマーケティングは、社会科学の一分野であるのと同時に、実務的な側面も有する。研究成果をさまざまな媒体で発信していくこともまた、プロジェクトの役割の一つである。その意味で、全国各地で活躍されている諸先輩方の目に触れることのできる「校友会ニュース」においてこうした記事を執筆させていただいたことに感謝の意を表したい。

ブラジル支部

碑建立45周年で慰霊祭



校友会ブラジル支部（伯国農大会）は7月30日、サンパウロ市郊外のグアルリョウス市サン・ジューダス・タデウ墓地内

科育ての親・杉野忠夫初代学科学長を崇拝するもの。ブラジル校友が募金し、1973年6月に「杉野忠夫先生、先覚農大同窓生、追悼之碑」として建立。毎年7月第4日曜日に慰霊祭を行い、ブラジル校友の心より所となっている。

南米3国支部と交流 移住物故者の墓参も

第45回を迎えた今年は、ブラジル、パラグアイとアルゼンチンの3国親睦交流会を併せて開催。大学から新沼昭夫副学長、小野功東京農業大学名誉教授（元・農業拓殖学科教授）、拓友会から佐藤貞茂副会長、校友会から小野甲二常任理事・事務局長、武井深校友が参加した。

慰霊祭に先立ち小野常任理事は「追悼之碑のご霊前に立ち、おじくりに

世田谷野球部決意固める 秋季リーグを前に激励会



激励会で期待を表明する三好会長

の校友の歓迎を受け交流した。トマス移住地では第3代学長・千葉三郎先生ほか移住物故者の墓参を

した。その後、パラグアイのイグアス移住地で墓参。アスンシオンの農大会館を表敬訪問してパラグ

イ支部校友と交流。さらにブエノスアイレスでアルゼンチン支部校友と親善交流を行った。

リーグ戦では部員も監督も

今までの練習の成果を形に残していくという意気込みを持っている。校友会の皆さんの心からのご支援と応援をお願いしたい」とし、

また、キャプテンの石田陽平君（開4）は「春のリーグの悔しさをばねにこの秋は優勝を目指して頑張っていく」と決意表明した。

目指せ「横綱豊山」 理事会で締め込み贈る

平成29年度校友会理事会が校友会館大会議室で、理事22人、監事3人が出席して5月12日に開かれた。平成28年度事業報告・決算報告と平成29年度事業計画と

収支予算などが審議され承認された。これら議案は厚木キャンパスで5月19日に開かれる通常総会（代議員総会）に提案された。

ため「今度こそ」と決意を固める激励会となった。激励会では三好吉清会長が同部の部員を招いて開いているもの。部員105人のうち96人が参加。校友会役員からの励ましの言葉を受けた。

同野球部は、平成27年度秋季リーグ戦で2位の好成績を収めて以降、十分な結果を残せていない。三好会長は「地方の支部総会に行く

所に、幕内入りを果たした小柳改め豊山関が昇進の報告に訪れた。校友会三好吉清会長からお祝いに本場所用締め込み一式の目録が贈呈された。三好会長は「一層精進して横綱を目指してほしい」と激励した。

会員の動静

慶

平成29年春の叙勲で次の方々が受賞されました。

瑞宝小綬章 秋田県支部 佐々木清勝氏（昭37農）

旭日双光章 福岡県支部 亀頭寿太郎氏（昭34短農）

瑞宝双光章 群馬県支部 増田 武志氏（昭41経）

市町村長に次の方々が当選されました。

埼玉県支部・松伏町 埼玉県支部・松伏町

新支部長就任

支部長 香川県支部 大森 薫之氏（昭45工）

京都府支部 小島 義治氏（昭45造）

平成29年10月7日

次の校友がご逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。（支部などからの報告のみ掲載）

茨城県支部・行方市 鈴木 周也氏（平6産食）

平成29年9月 2期目 新潟県支部 若杉 民郎氏（昭29経）

平成28年6月 清水 宗之氏（昭41工）

平成28年12月2日 山形 正之氏（昭50畜）

平成29年1月4日 新潟県支部 彌永 亮一氏（昭51造）

平成29年3月3日 福岡県支部 片岡 一博氏（昭34醸）

新潟県支部

平成29年3月11日

野口 昭男氏（昭25学経）

大阪府支部 法月 郁朗氏（昭26学化）

兵庫県支部 長田 利造氏（昭16学農）

平成29年3月21日 兵庫県支部 真崎 直満氏（昭42経）

平成29年4月1日 福岡県支部 小柳 莊（塩田）氏（昭27短醸）

平成29年4月14日 新潟県支部 新沼 亮一氏（昭51造）

平成29年5月3日 長野県支部 長野 重喜氏（昭59工）

平成29年5月3日

山本 正孝氏（昭40農）

高知県支部 阿久津如立氏（昭43経）

平成29年5月14日 群馬県支部 井野 昭子（小池）氏（昭46短米）

平成29年5月18日 群馬県支部 岩井 俊二氏（昭43造）

平成29年6月12日 群馬県支部 栗原 惟志氏（昭27学土）

平成29年6月22日 群馬県支部 吉田伊代吉氏（昭36農）

平成29年7月1日 群馬県支部 落合 正雄氏（昭40農）

平成29年7月1日

平成29年7月1日

平成29年7月1日



幕内に昇進した豊山関に締め込みの目録を贈った理事ら

校友会理事会は、通常の年5月に2回・12月・2月の4回開かれて、時機の案件について審議されている。

J A全農は7月25日、経営管理委員会会長にJ Aグループ山形5連会長の長澤豊氏を選んだ。日本農業の経済事業を支えるトップだ。長澤会長は昭和48年農学部農業拓殖学科を卒業。30年余り農協連

ズームアップ 30

動と経営に携わってきた。「これまでの人生のベースは農大時代にある」と振り返る長澤会長に、ズームアップ「人」のインタビューをした。
(聞き手は小野中二常任理事・事務局長)

今に生かす人間関係

――農大時代を振り返ってどんな思いをお持ちでしょうか。

長澤 農大の4年間とい

うものは一番思い出深いものです。もちろん研究面で人生を深めるということもありますが、さらに幅広く、ウィングを広くということが自分にとっては大事なことでした。ここが私の生き方にとって一番のベースになるわけです。

私は農大から歩いて5分ぐらいのアパートに住んでいました。大学も近しい、授業が終われば仲間が集まってよくマージャンをしたものです。大学の研究室をはじめていろいろいる仲間がいました。その関係は今も続いています。ちょっと落ち込んだときに学生時代を思い出します。今、全農会長として改革の中にあっていろいろたかれながらもそれを跳ね返す原動力になっています。

全農はJ Aグループの経済事業を担っているわけですから、いろんな業態と結びつき、人間関係をつくりながら、信頼関係で新しいものを作り上げていくことが大切です。相互扶助あるいは共生経済、共生社会の創造です。そういう意味では初代学長の横井時敬博士が農大を建学するにあ

たっての基本的な哲学は、時代は変わった今も大切にしていかなきゃいけないなと思っています。

――農業拓殖学科に学ばれましたが。

長澤 私は短大から昭和46年に拓殖に進みまし

た。農業拓殖学科では先生方はもちろん、先輩や友人にも恵まれ、勉学も含め楽しい学生生活を送りました。

何とか無事に卒業した後、請われて母校の上山農高で常勤講師をやらせてもらいました。その後、家

業のブドウ農園を継ぎ、10数年続けて農業拓殖学科の実習生を受け入れていま

情報発信したいと思っています。例えば全農の餌関係のグループ会社が米国にあり

や商品を創造し、世界に発信していかねばなりません。今、全農改革に力を入れています。これから全国の農協を回って農家の声や組合長の話を聞く機会もつくりたいと思っています。土日・祝日も使わなきゃいけないことになりそうです。

私は全農副会長時代に1回母校に行きました。そのとき女子学生が多いのにびっくりしました。

――今年は農大合格者の52%が女性でした。

長澤 食を担っている分野は女性を登用してトップランナーにしなければいけない。さらに言えば管理職に登用する。日本の農業は女性が担っているのです。しかもご飯を作っている、農家の女性は偉大なものです。女性と男性では発想が違います。それを生かしてもらいたい。

人生のベースは農大時代

J A全農会長 長澤 豊氏 (昭和48年 農学部農業拓殖学科卒業)



学生はポジティブに

――今の学生に先輩として伝えたいことがあるれば。

長澤 私たちの時代と違って、今の学生たちは本当にいい環境にあると思います。

4年間の学生生活で、人間形成がきわめて重要だろうと思っています。だからこそ学内にどまらず、いろいろなところを見てほしいと思っています。そして絶えずポジティブに生きるための強さを身に付けてほしい。

そのために、いかに生きるかというジャンルについても探究し、研究を深めて

農高を卒業して進学

――農大に進学された動機は。

あの時代に農高を出て農大に行きました。わくわく感があって夢が描ける学生時代という期間を親

からもらったということ

職する人も多い時代、農業高校から大学に行くというのは数人でした。

いずれは農業をやらなきゃいけないとは思っていましたが、やっぱり東京に行きたかった。中卒で就

東京農大の本

東京農大出版会
〒156-8502 世田谷区桜丘1-1-1
TEL 03-5477-1266
FAX 03-5477-1274

わが家は低塩・無添加のお漬物



大島 貞雄 著
定価：本体 1600 円＋税
B5判変形・並製・口絵カラー

◇本物の漬物をつくるこ

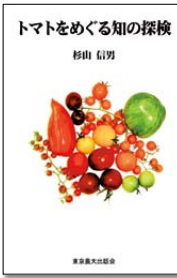
知られざる東京農大史



内村 泰 著
大澤貴寿監修・編
定価：本体 3000 円＋税
四六判・並製

◇東京農大図書館所蔵資料による知られざる歴史をひも解く。榎本武揚、横井時敬、文京区麹町、大塚窪町、渋谷常磐松などに深遠な思いが

トマトをめぐる 知の探検



杉山 信男 著
定価：本体 2200 円＋税
A5判・並製

◇トマトはなじみ深い野菜だ。健康野菜として関心が高い。多角的視点から情報をまとめている。トマトを通じて農や食の文化を考える、貴重なデータが詰まっている。参考文献は得難い資料。

続・石と造園 100話



小林 章 著
定価：本体 2000 円＋税
四六判・並製・カラー

◇著者は造園施設材料、快適な造園空間の創造などについて永長年研究教育に携わってこられた。ライフワークの内容をコンパクトにまとめられている。既刊の『石と造園100話』の続編。

ハーバルガーデン



横島 みどり 著
定価：本体 2400 円＋税
A5判・並製・カラー

◇ハーブの葉が互いに触れ合い、また人の手足、体側の各部に触れ合うことによって、ほのかな香りが漂う。五感の全てを使って、香りと空間のデザインを体験してほしい。

第2版 山のきもち



山本 悟 著
定価：本体 1600 円＋税
A4・並製・口絵カラー

◇好評第2版。林業は将来性がないのか。山村地域を消滅させていいのか。その林業や山村に若者が注目始めた。理由を探ると山への需要が見えてくる。たおやかに胎動する「木志向」が見えてくる。

兵庫県と東京農業大学との 地域創生に係る包括連携協力協定について ～人口減少社会等地域の課題解決に向けて～

東京農業大学校友会兵庫県支部長 石原 憲一郎

兵庫県は、日本のほぼ中央に位置し、北は日本海に面し、南は瀬戸内海から淡路島を介して太平洋へ続いており、大都市から農山漁村、離島まで、さまざまな地域で構成されていることから、「日本の縮図」といわれてきました。兵庫県の課題は日本の課題そのものといっても過言ではありません。特に、全国各地で大きな社会問題となっている人口の減少による地域コミュニティーの崩壊や農業後継者不足からくる休耕田の増加、さらに各産業界での労働者不足などが顕著で、「地域創生」が県政の最大の課題となっています。

一方、東京農業大学は、「農学」を掲げて創設され、126年間の歴史と伝統を持つわが国有数の高等教育機関として大きな役割を果たしてきました。近年は、地球環境の変動や時代潮流の変化に対応して「農学」に期待する分野も「生命、食料、環境、エネルギー、地域創成」をキーワードに、農と生命を科学し「生きる」を支える方向に進化して挑戦しています。その挑戦の具体化の一つとして全国の自治体や企業と積極的に連携交流を進めており、東京農業大学の資源を最大限生かした地域課題の解決や新製品の開発に取り組みながら、教育研究力の強化に取り組んでいます。

今回、井戸敏三知事が、県政の最大課題である人口減に伴う地域活力の低下を危惧し、東京の大学との交流を求めていることを知事との会話で知った東京農業大学校友会兵庫県

支部長が、兵庫県と東京農業大学の連携を双方に呼び掛けたのがこの連携の始まりです。

2017年4月24日、兵庫県庁で金澤和夫兵庫県副知事と高野克己東京農業大学学長との間で協定締結の調印式が行われ、今後、下記具体的連携事項を中心として各分野において相互交流を行うことが確認されました。特に、兵庫県は、山田錦という酒米の故郷で、多くの醸造企業が存在し、多くの校友経営者も活躍していることから、醸造に関する連携協力は特に期待されます。なお、具体的連携内容やアクションプログラムなどについては、両者の担当者からなる専門委員会を設けて協議して進めることとなっています。

具体的連携事項

- 1.次代を担う人材の育成に関する事項
・人材育成の相互協力
- 2.学術・研究・広報に関する事項
・醸造技術の高度化
・知識、情報の共有・深化
- 3.産業・科学技術の振興に関する事項
・新製品開発、兵庫の酒PRへの協力
- 4.雇用の創出に関する事項
・県内での就職支援
・県内での就農支援
- 5.地域の活性化または交流に関する事項
・ふるさと兵庫の地域資源ブランディング

東京農大は、兵庫県と包括連携協定を締結した。

同協定は、校友会兵庫県支部が仲立ちをして成功させたもの。校友会支部の役割を発揮した事例として

注目されている。この協定により兵庫県立農業大学校、兵庫県立森林大学校での講義や研修、

醸造技術の高度化を目指す研究協力、新商品開発などの協力、酒造好適米の山田錦を生かした地域の

大学と県の「懸け橋」に

兵庫県支部

兵庫県支部

支部だより



WEB活用 活動広げる

兵庫県支部は、校友会ホームページを積極的に活用して、支部総会の開催

などを管内会員に周知することに努め、各種情報をインターネットを活用して広く情報発信している。

4月以降のものをみると「兵庫県と東京農業大学との協定」（別掲参照）から始まり、10月までに既に11回の投稿を記録して



5月19日第2回兵庫県人会を厚木にて開催

会など各種集会の様子がパソコンやスマートフォンで写真付きで見ることができる。

掲載情報を送ってくれるのは、支部幹事長の椿野健次さん（昭61経）だ。寸暇を惜しまず原稿を作り送っている姿に感心させられる。これらの情報は、データを消さない限り、将

「頑張れ」正代と豊山 全国の支部員らが熱烈応援

埼玉県支部と千葉県支部の校友ら有志50人が9月場所（4日目）の13日、

国技館に陣取り母校出身の関取・正代関と豊山関に大声援を送った。同22日

来に残り、母校・校友の姿をいずれ活用することができる。情報の効果はなかなかつかみづらいが、必ずどこ

かで誰かが見て読んでくれることを信じて、今後とも継続してほしい。（文責・本部）

再生、学生によるインターンシップ受け入れと就職・就職支援などを通じて地域創生の支援を実施する。協定締結式は4月24日、兵庫県庁で行われた。兵庫

県からは、金澤和夫副知事、山口最丈政策創生部長らが、東京農業大学からは高野克己学長、立岩壽一エクステンションセンター長らが出席した。

応援する埼玉県支部と千葉県支部の校友が

栃木県支部校友が応援



支部総会開催一覧表（平成29年4月～9月）

支部名	平成29年		出席者		参加者数	場所	講演など
	日程	曜日	校友会	大学			
東京	5月13日	土	外園惇副会長	高野克己東京農業大学学長	50	世田谷区	「高野がつくる日本の未来」参議院議員／高野光二郎氏（平9開）の講演
新潟	6月3日	土	小野甲二常任理事	欠席	91	新潟市	「終わりのない社会をめざして」八海醸造㈱代表取締役／南雲二郎氏（昭55短醸）の講演
高知	6月3日	土	外園惇副会長	欠席	50	高知市	尾崎正直高知県知事が懇親会に出席／「高知県と本学との連携に関する協定」について挨拶
埼玉	6月10日	土	豊原秀和常任理事	新部昭夫東京農業大学副学長	62	秩父市	—
兵庫	6月18日	日	外園惇副会長	高野克己東京農業大学学長	61	神戸市	「東京農業大学の近況等について」東京農業大学／高野克己学長が挨拶
大分	7月1日	土	三好吉清会長	地域環境科学部長矢口行雄教授	70	大分市	「知られざる農大史」矢口教授の講演
千葉	7月2日	日	小野甲二常任理事	生命科学部長矢嶋俊介教授	72	千葉市	「東京情報大学の近況について」東京情報大学／鈴木昌治学長が挨拶
鳥取	7月2日	日	外園惇副会長	国際食料情報学部長友田清彦教授	40	倉吉市	「Uターン就職のすすめ」ふるさと鳥取県定住機構／手島由美子氏の講演
秋田	7月22日	土	欠席	応用生物科学部長上原万里子教授	33	秋田市	「秋田県初軽トラガーデンの開催」秋田県造園協会／佐藤浩志氏（平2造）、「東京農大名物農大やきそばの店」／小坂直司氏（昭32短醸）
和歌山	7月22日	土	欠席	生物産業学部長黒瀬秀久教授ほか	40	和歌山市	—
岡山	7月22日	土	小泉幸道副会長	アクアバイオ学科塩本明弘教授ほか	55	岡山市	「工芸の魅力」樹吉兆庵商品開発部／祇園公子氏（昭58化）の講演
愛媛	7月22日	土	外園惇副会長	欠席	45	松山市	—
三重	7月23日	日	鳥海稔雄常任理事	新部昭夫東京農業大学副学長ほか	31	津市	「地域の森林と地域の住民の健康を考える」森林総合科学科教授／上原蔵氏の講演
栃木	7月29日	土	鳥海稔雄常任理事	造園科学科高橋新平教授	74	宇都宮市	「こころみ学園のワインづくり」㈱ココ・ファーム／ワイナリー専務取締役／池上知恵子氏（昭59短醸）の講演
香川	7月30日	日	外園惇副会長	東京農業大学学長室高柳和直次長	46	高松市	「食品に『もったいない』を～食品ロスの削減に向けて～」牛久保明邦東京農業大学名誉教授の講演
熊本	7月30日	日	小泉幸道副会長	小泉幸道東京農業大学名誉教授	44	熊本市	「発酵食品の魅力と健康機能」小泉名誉教授の講演
佐賀	8月5日	土	欠席	欠席	50	佐賀市	—
富山	8月18日	金	宮林茂幸常任理事	農学部長小川博教授	37	富山市	—
沖縄	8月25日	金	豊原秀和常任理事	生物応用化学科山本祐司教授	56	那覇市	—
青森	8月26日	土	鳥海稔雄常任理事	食料環境経済学科立岩寿一教授	41	弘前市	講演等なし
宮城	8月26日	土	小泉幸道副会長	小泉幸道東京農業大学名誉教授	53	仙台市	「花と緑の啓発に関する一連の地域貢献」樹泉緑化代表取締役／鎌田秀夫氏（昭52造）の講演
岐阜	8月26日	土	外園惇副会長	食料環境経済学科北田紀久雄教授	50	岐阜市	「お酒の話」天領酒造代表／上野田隆平氏（昭52醸）の講演
山口	8月26日	土	横澤馨常任理事	短期大学部長安藤達彦教授	40	山口市	「農地に関する情報提供について」山口県農業会議事務局／白松英明氏（昭57米）の講演
福岡	8月26日	土	三好吉清会長／岡本素子主任	造園科学科金子忠一教授	78	柳川市	「立花家の農学への貢献」～立花氏庭園と立花家農事試験場～県教育庁／正田実知彦氏（平24院造修）の講演
鹿児島	8月26日	土	豊原秀和常任理事	国際農業開発学科志和地弘信教授	31	鹿児島市	—
島根	8月27日	日	横澤馨常任理事	醸造科学科穂坂賢教授	40	大田市	「良い水と良い米が育む日本酒で地域の活性化ができるか」穂坂教授の講演
広島	8月27日	日	小野甲二常任理事	森林総合科学科江口文陽教授	44	広島市	「6次産業型事業の展開」／上田敏英氏（昭62畜）の講演
神奈川	9月2日	土	三好吉清会長	畜産学科長桑山岳人教授	67	厚木市	「骨の健康を守る植物成分のチカラ～ロコモとメタボは同時予防～」応用生物科学部長上原万里子教授の講演
徳島	9月2日	土	小泉幸道副会長	小泉幸道東京農業大学名誉教授	39	徳島市	—
長崎	9月2日	土	小野甲二常任理事	東京農業大学学長室高柳和直次長	20	諫早市	大学及び校友会の近況・課題等についてフーリーディングを実施
長野	9月3日	日	三好吉清会長	畜産学科多田耕太郎教授	27	松本市	「私の果樹経営」㈱安曇野ファミリー農産代表取締役／中村隆信氏（昭58農）の講演
愛知	9月9日	土	外園惇副会長	東京農業大学学長室高柳和直次長	40	名古屋市	「From Rice field to Table」～関谷醸造株式会社代表取締役／関谷健氏（平6醸）の講演

平成29年度支部ブロック会議開催	支部ブロック名（当番支部名）	開催日・場所	本部出席役職員
	北海道・東北（青森県支部）	10月21日（土）15時～22日（日）青森市：ラ・プラス青い森	副会長 外園 惇
	関東甲信越（千葉県支部）	11月4日（土）14時～5日（日）千葉市：ポートプラザちば	会長 三好吉清
	東海・近畿・北陸（三重県支部）	11月11日（土）14時～13日（日）伊勢市：伊勢パールピアホテル	副会長 小泉幸道
	中国・四国（高知県支部）	11月25日（土）14時～20日（日）高知市：ホテル南水	会長 三好吉清 常任理事・事務局長 小野甲二
	九州（沖縄県支部）	11月11日（土）14時～20日（日）宮古島市：レストランのむら本店	会長 三好吉清 常任理事 豊原秀和

体育団体

女子駅伝・杜の都でシード権確保

平成29年10月29日、杜（もり）の都・仙台市で行われた第35回全日本大学女子駅伝対校選手権大会に5年連続25回目の出場を果たした農大女子駅伝チームは、エース棟久らの力走で見事6位に入賞、来年の同大会シード権と2017全日本大学女子選抜駅伝（富士山駅伝）への出場権を確保した。昨年の悔しさをなげに、一年間各種大会に連戦し懸命に練習を重ねた結果をメジャー大会の場で生かした。全日本選手権のシード権確保は2年ぶり。



5区・棟久の力走



原田からたすきをもらい力走する佐藤

佐藤と棟久が殊勲の走り

本大会は台風の影響で降りしきる雨の悪天候下での戦いとなった。6区間全長38.5に2連覇を目指す松山大や立命館大のシード校や中央大など地区予選を勝ち抜いた26チームが出場した。

普段の調子が上がらず区間15位と出遅れた。昨年1区16位の悪夢がよぎったが2区に起用されたレギュラー選手の原田紗枝は懸命に13位に追い上げた。予選会（関東女子インカレ）で区間賞をとるなど調子を上り波に乗る3区の佐藤有希は、区間2位の力走を見せ5人抜きで順

位を8位のシード権内に押し上げた。4区はキャプテンで30000円障害のスペシャリストの清水萌衣乃。最も距離の短い区間で各校スピードランナーを配置した。清水は順位を下り9位となったが8位とは僅差でたすきリレー。5区は各校がプライドをかけてエースを起用する

最長区間。農大はユニバーシアードハーフマラソン金メダリストのエース棟久由貴を起用。スピードがあり長距離に強い棟久は3人抜きの力走で通過順位をシード確保権内の6位に押し上げ、入賞をほぼ確実のものとした。

最終6区のアンカーに起用された小川奈々はシード権確保を目指し必死の力走で順位を守り総合6位でフィニッシュの

出場選手・学年

1区	保坂野恋花（醸2／山梨・韮崎）	区間15位	通過15位
2区	原田紗枝（健3／千葉・成田）	区間13位	通過13位
3区	佐藤有希（健3／茨城・キリスト教）	区間2位	通過8位
4区	清水萌衣乃（醸3／神奈川・逗子）	区間9位	通過9位
5区	棟久由貴（健2／山口・西京）	区間3位	通過6位
6区	小川奈々（経2／千葉・市船橋）	区間13位	総合6位

校友会宮城県支部も大声援



渡邊支部長から激励を受ける清水主将

競技場や沿道では、降りしきる雨の中、校友会宮城県支部の役員ら校友が力走する選手に大声援を送った。レース終了後の報告会では、長田千治監督が「雨の中、大学関係者はじめ、多くの校友の皆様の力強い応援でシード権がとれました。若いチームですので一層精進を重ね、来年の杜の都では、さらに強い農大をお見せしたい。今後ともご支援いただきたい」とあい



関東学生三大会で個人2連覇を果たした吉田



優勝した出場選手と監督・コーチら

馬術部

さつした。また主将の清水萌衣乃は「応援していたいた皆さまのおかげでシード権が取れた」と喜びに声を詰まらせた。

最後に、農大ののぼり旗をもち応援した渡邊康夫

剣道部

30日～10月1日第87回関東学生馬術争覇戦が開かれ、農大馬術部は18年ぶりとなる団体優勝を果たし、最優秀選手に和健太郎（ビジネス4）が選出された。争覇戦は関東学生1部リーグの各大学6人ずつの選手による団体トーナメント戦で、対戦相手と馬匹を貸与しあい同じ馬に乗る2人の選手の勝敗で勝ち点を競う。農大は決勝戦にお

いて貸与馬でも減点ゼロの走行を収めた。

【出場選手】吉田匡慶（ビジネス4）、和健太郎（同4）、富園真伍（同3）、原田天馬（同3）、林大地（経2）、鶴飼勇希（造2）、南部七輝（ビジネス1）

農友会活動



AIBA世界戦で初戦を突破した森坂

ボクシング部

2020年東京オリンピックに向け国内外で活躍！

台湾・台北市で8月13～16日に開かれた第7回台北市カップ国際トーナメントで齋藤麗王（ビジネス1）がライト級で出場した。初戦から決勝まで圧倒的な強さで1年生と思えない貫録を見せつけ優勝を飾った。

ドイツ・ハンブルグで8月25日～9月2日に開かれた国際ボクシング協



台北市カップで優勝した齋藤④

坂は、アジアでも上位に入る実力を示した。

国内では、愛媛県松山市

で10月5日～9日に第72回国民体育大会が開かれ、地区予選を通過した学生

7人が出場した。優勝したバンナム級の中野幹士（ビジネス4）が大会2連覇を達成し、北浦龍馬（ビジネス3）と黒柳禅（ビジネス1）が準優勝と健闘した。

なお、福井県福井市で11月に開かれる全日本選手権大会には、森坂、齋藤、国体2連覇の中野を含む合計9人が出場して、来年の8月にインドネシアで開かれるアジア大会を目指す。



8年連続で全日本大会出場を決めた剣道部



力走する小山直城（左から2人目）

箱根駅伝出場権今年も逃す

順位	記録	氏名	学科	出身
35	1:00:23	小山 直城	醸3	埼玉
82	1:01:01	金子 鷹	国ビ3	長崎
104	1:01:11	川田 裕也	経2	埼玉
123	1:01:21	平井 陽大	経1	千葉
171	1:01:52	加藤 大地	開3	神奈川
178	1:01:59	高良綾太郎	経4	佐賀
194	1:02:13	工藤 颯	経1	埼玉
231	1:02:57	田中 健祐	開3	石川
236	1:03:00	徳永 晃希	開4	長崎
237	1:03:01	山館 湧真	開4	岩手

川駐屯地をスタート、国立昭和記念公園をゴールとする20キロのコースで行われた。関東学連の49大学が参加し、来年正月の本戦出場権枠10校をかけて死闘を展開した。農大は健闘し

陸上競技部男子強化指定部

第94回東京箱根間往復

大学駅伝競走（箱根駅伝）の予選会が10月14日、東京・立川市の陸上自衛隊立

たものの、16位に終わり、4年連続して箱根駅伝の切符を逃し出場権を確保することができなかった。

農大は昨年13位、一昨年は12位に終わり、本戦への出場権を逃している。「今

年こそは」と箱根の古豪・伝統校の名譽をかけ、70回目の出場をめざし激戦に挑んだ。しかし、上位10人の合計タイムは10時間18分58秒。トップ帝京大学と14分00秒の大差。10位の東京国際大学とも8分24秒と大きく開いた。

農大はレースに陸上競技部員から選抜された12人が出場。予選通過切符の目安となる100位以内に2人（昨年は3人）が入った。トップの小山直城は1時間00分23秒で35位、金子鷹は1時間01分01秒で81位だった。

順位発表後、陸上競技部の長田千治監督は「4月に監督に就任し箱根駅伝出

かすみがうらマラソン（4月16日、茨城県霞ヶ浦）
◇女子招待10マイル▽2位▽佐藤有希（健3）▽6位▽保坂野恋花（醸2）
第65回兵庫リレーカーニバル（4月23日、神戸総合運動公園）
◇グランプリ女子10000メートル▽6位▽棟久由貴（健2）▽13位▽清水萌衣乃（醸3）
第51回織田幹雄記念国際陸上競技大会（4月29日、広島県）
◇5000メートル▽5位▽棟久由貴
第96回関東学生陸上競技対校選手権大会（5月25〜28日、日産スタジアム）
◇1500メートル▽7位▽平賀奏美（経1）▽10位▽原田紗枝（健3）
◇3000メートルSC決勝

▽優勝▽清水萌衣乃
◇10000メートル決勝▽5位▽棟久由貴▽9位▽佐藤有希▽8位▽小川奈々（経2）
◇5000メートル決勝▽13位▽保坂野恋花▽31位▽小川奈々▽35位▽持丸美佐子（経1）
2017日本学生陸上競技個人選手権大会（6月9〜10日、平塚）
◇1500メートル決勝▽7位▽土田佳奈（健2）◇5000メートル決勝▽4位▽棟久由貴（33分40秒45）
◇ハーフマラソン▽優勝棟久由貴（1時間13分48秒）
棟久が台北市で開催された第29回ユニバーシアード

Courses Internationales de Nouvelle Calédonie 2017（8月28日、ニューカレドニア）
◇フルマラソン▽小川奈々（2時間46分06秒）
天皇賜盃第86回日本学生陸上競技対抗選手権大会（9月8日、福井県）
◇1500メートル決勝▽3位▽保坂野恋花▽10位▽平賀奏美
◇10000メートル決勝▽5位▽棟久由貴▽13位▽佐藤有希
栄章贈与式 9月10日

たものの、16位に終わり、4年連続して箱根駅伝の切符を逃し出場権を確保することができなかった。

農大は昨年13位、一昨年は12位に終わり、本戦への出場権を逃している。「今

年こそは」と箱根の古豪・伝統校の名譽をかけ、70回目の出場をめざし激戦に挑んだ。しかし、上位10人の合計タイムは10時間18分58秒。トップ帝京大学と14分00秒の大差。10位の東京国際大学とも8分24秒と大きく開いた。

農大はレースに陸上競技部員から選抜された12人が出場。予選通過切符の目安となる100位以内に2人（昨年は3人）が入った。トップの小山直城は1時間00分23秒で35位、金子鷹は1時間01分01秒で81位だった。

順位発表後、陸上競技部の長田千治監督は「4月に監督に就任し箱根駅伝出

陸上競技部女子強化指定部

第28回関東学生新人陸上選手権大会（9月15〜17日、相模原ギオンスタジアム）
◇1500メートル▽8位▽佐藤理子（健1）◇10000メートル▽3位▽森岡樹生（醸2）◇3000メートル▽12位▽坂井希美（健1）



優勝を喜ぶ清水

0キロタイムレース決勝▽4位▽佐藤有希
日本陸上競技選手権大会（6月23〜25日、大阪府ヤンマースタジアム長居）
◇10000メートル▽8位▽棟久由貴▽3000メートル▽10位▽清水萌衣乃
SC▽10位▽清水萌衣乃
ホクレンディスタンスチャレンジ（7月9日、北見）
◇5000メートル▽19位▽平賀奏美（経1）◇5000メートル▽12位▽保坂野恋花▽17位▽小川奈々
◇10000メートル▽5位▽佐藤有希▽10000メートル▽3位▽棟久由貴
第29回ユニバーシアード競技大会（8月23〜27日、台湾・台北）
◇10000メートル▽4位▽棟久由貴（33分40秒45）
◇ハーフマラソン▽優勝棟久由貴（1時間13分48秒）
棟久が台北市で開催された第29回ユニバーシアード

競技大会の10000キロとハーフマラソン2種目の日本代表選手として出場した。棟久は今年の3月から6月にかけて開催された選考競技会において優秀な結果を残したため出場権を得たもの。本学の長距離女子としては、29年ぶりの出場

となる。同大会は、国際大学スポーツ連盟（FISU）が主催する国際総合競技大会であり、学生のオリンピックとも言われている。世界の強豪と戦うメジャー大会で日本代表選手として農大選手が優勝したのは初めて。

棟久に先日のユニバーシアードの成績に対して勲功賞が贈呈された。

第28回関東学生新人陸上選手権大会（9月15〜17日、相模原ギオンスタジアム）
◇1500メートル▽8位▽佐藤理子（健1）◇10000メートル▽3位▽森岡樹生（醸2）◇3000メートル▽12位▽坂井希美（健1）

農大A1区の保坂野恋花は区間2位と奮闘したものの、2区の土田佳奈が6位、3区の原田紗枝が7位、4区の小川奈々が6位と順位を上げられない。しかし5区の佐藤有希が区間賞を取る活躍で、順位を3位にまで押し上げた。最終6区はエースの棟久由貴がさらに順位を上げ3年連続の準優勝に輝いた。

農大A1区の保坂野恋花は区間2位と奮闘したものの、2区の土田佳奈が6位、3区の原田紗枝が7位、4区の小川奈々が6位と順位を上げられない。しかし5区の佐藤有希が区間賞を取る活躍で、順位を3位にまで押し上げた。最終6区はエースの棟久由貴がさらに順位を上げ3年連続の準優勝に輝いた。



小川からたすきを受ける佐藤

場を目指してきた。選手は日々トレーニングに励んできた。しかし、予選は突破できなかった。選手は良く頑張った。来年こそは箱根に行けるよう頑張りたい。応援をよろしくお願したい」と話した。なお、金子鷹は箱根駅伝の関東学生連合チーム（16人）のうちの一人に選ばれた。当日は小雨が降る中、校友会の本部役員も沿道で応援。東京都支部、地元・校友会三多摩常磐会、千葉県支部、神奈川県支部、静岡県支部など多くの校友が母校ののぼりや横断幕を持って声援を送った。来年の予選突破を期待したい。

各選手の詳細は次の通り。
◇Aチーム準優勝
1区 保坂野恋花（醸2）

5区区間賞に佐藤有希
各選手の詳細は次の通り。
◇Aチーム準優勝
1区 保坂野恋花（醸2）

陸上部女子長距離は、9月24日、千葉県印西市で行われた第23回関東大学女子駅伝対校選手権大会で準優勝と健闘、全日本選手権大会（杜の都駅伝）への出場を決めた。

農大Aは主将の清水萌衣乃を故障で欠きながらも、優勝した東洋大にわずか11秒差の1時間39分51秒で2位となった。オープン参加の農大Bも健闘。25チーム中13番目でゴールテープを切った。

農大Aは主将の清水萌衣乃を故障で欠きながらも、優勝した東洋大にわずか11秒差の1時間39分51秒で2位となった。オープン参加の農大Bも健闘。25チーム中13番目でゴールテープを切った。



2番目にテープを切る棟久

校友会千葉県支部から多くの校友が応援に駆け付け、沿道から声援を送った。長田千治監督は「佐藤が頑張った。もう一度きっちり練習して仙台ではシード権獲得を目指し上位入賞したい」と気を引き締めていた。

校友会の三好吉清会長は10月20日、全日本大学女子駅伝選手権大会への出場をたたく、杜の都駅伝での健闘を期待して清水萌衣乃主将らを激励した。

第23回関東大学女子駅伝対校選手権大会（9月24日、印西市）
陸上部女子長距離は、9月24日、千葉県印西市で行われた第23回関東大学女子駅伝対校選手権大会で準優勝と健闘、全日本選手権大会（杜の都駅伝）への出場を決めた。

農大Aは主将の清水萌衣乃を故障で欠きながらも、優勝した東洋大にわずか11秒差の1時間39分51秒で2位となった。オープン参加の農大Bも健闘。25チーム中13番目でゴールテープを切った。

農大Aは主将の清水萌衣乃を故障で欠きながらも、優勝した東洋大にわずか11秒差の1時間39分51秒で2位となった。オープン参加の農大Bも健闘。25チーム中13番目でゴールテープを切った。

校友会千葉県支部から多くの校友が応援に駆け付け、沿道から声援を送った。長田千治監督は「佐藤が頑張った。もう一度きっちり練習して仙台ではシード権獲得を目指し上位入賞したい」と気を引き締めていた。

校友会の三好吉清会長は10月20日、全日本大学女子駅伝選手権大会への出場をたたく、杜の都駅伝での健闘を期待して清水萌衣乃主将らを激励した。

世田谷キャンパス硬式野球部
強化指定部

東都大学リーグ2部の農大は春季リーグでは3勝8

敗(勝点11国士大)で5位の成績に終わった。秋季リーグは2部上位を目指したが2勝8敗(勝点11駒澤大)の最下位となり11月に3部優勝の学習院大との入れ替え戦を戦う。戦国東都の中において低迷が続いているものの2部優勝の駒澤大に勝ったのは来季への自信につながる。

オホーツク生物産業学部
硬式野球部強化指定部

1部春季リーグ戦で28回目の優勝

秋季リーグの結果

順位		駒澤大	青学大	拓殖大	専修大	国士大	東農大	勝数	負数	分数	勝率	勝点
1	駒澤大	—	〇〇	〇〇	●△〇〇	△〇〇	●●	8	3	2	0.727	4
2	青学大	●●	—	●〇●	●〇〇	〇〇	〇〇	7	5	0	0.583	3
3	拓殖大	●●	〇〇〇	—	●	●〇〇	〇〇	6	5	0	0.545	3
4	専修大	〇△●●	〇〇●	〇	—	●〇〇	〇〇	7	5	1	0.583	2
5	国士大	△●●	●●	〇●●	〇●●	—	〇〇	4	8	1	0.333	1
6	東農大	〇〇	●●	●●	●●	●●	—	2	8	0	0.200	1

苫小牧市で4月30日に開幕した平成29年度北海道学生野球連盟の春季リーグ戦は、エース宮本蒼士樹(産経4)を中心に接戦をものにし、9勝1敗でリーグ通算28回目の優勝を果たした。最高殊勲選手には主将の周東佑京(産経4)が選ばれ、ベストナインにも6人が選出された。



春季リーグで優勝したオホーツク硬式野球部

に追いつかれ、延長タイブレークに突入。10回表1点勝ち越すものの、裏に逆転され4・5でサヨナラ負けとなった。

8月28日に苫小牧市で開幕した秋季リーグ戦は、最終日まで優勝が決まらない大混戦のリーグ戦となったが、投手陣が安定せず、7勝3敗で2位。明治神宮野球大会出場権をかけた北海道代表決定戦に進出することができなかった。

プロ野球ドラフト会議
2選手が志望届提出

2017プロ野球ドラフト会議が10月26日に開催されるが、宮本蒼士樹投手(産経4)と周東佑京内野手(産経4)がプロ野球志望届を提出した。

宮本(鎮西高校出身)は、サイドスローからマックス146km/hを投げる本格派右腕。今シーズンは課題としていた変化球の精度も高まり、9回裏に同点

6月5日に開幕した第66回全日本大学野球選手権大会は3年連続15回目の出場で、開幕ゲームとなった初戦は北陸大学野球連盟代表の福井工業大学と対戦した。序盤からシーソーゲームとなり、9回裏に同点

部校の上位6校の合計18校で競い優勝した。11月12日に開かれる東都1部戦における、フォーメーション出場権を確保した。

第115回東都大学学生競技ダンス選手権大会(10月8日・独協大学)

▽団体Ⅱ3位▽ラテンの部で小林和久(醸4)・松下小春(醸3)組がクイックステップ3位、シニアラテンの部で佐原安春(森3)・荒奈瑠美(栄3)組がチャチャチャ3位▽ジュニアの部で藤ヶ崎半平太(化1)・近藤奎都(食農1)組がクイックステッ



フォーメーション予選会で優勝

ラテンの部で優勝した小林・松下組

相撲部
強化指定部

第44回東日本学生相撲個人体重別選手権大会(7月30日・靖国神社相撲場)

◇75kg未満級▽3位Ⅱ志賀裕人(開3)
◇100kg未満級▽3位Ⅱ加藤聖也(森1)

第42回全国学生相撲個人体重別選手権大会(9月3日・靖国神社相撲場)
◇75kg未満級▽2位Ⅱ志賀裕人(開3)
◇100kg未満級▽3位Ⅱトウプシンサナ(ビジネス4)

り、今後がさらに期待できる投手である。

周東(農大二高出身)は、走攻守3拍子そろっている身体能力の高い選手。特に走力はプロのレベルでも即戦力となる。併設高校からオホーツク野球部を経由しての初のプロ野球選手誕生となるか注目される。

10月20日現在

ホッケー部

関東学生ホッケー春季リーグで、男子部は3位、女子部は4位となった。この結果男子部、女子部とも全日本大学ホッケー王座決定戦に出場したが上位に入ることができなかった。

また、男子部は高円宮杯男子ホッケー日本リーグ2部リーグ5位で終了した。現在、関東学生ホッケー秋季リーグが開催されており男子部は決勝、女子部は準決勝進出を果たしている。11月には全日本学生ホッケー大会(7月22日・ポーランド)◇男子中量級▽3位Ⅱオチルフィー・ウスフバヤル(モンゴル 平成26年ビジネス卒)

OBの活躍

第10回ワールドゲームズ
プロソフ大会(7月22日・ポーランド)

◇男子中量級▽3位Ⅱオチルフィー・ウスフバヤル(モンゴル 平成26年ビジネス卒)



※ワールドゲームズは、4年に1度、オリンピック種目以外の競技による国際総合競技大会で「もう一つのオリンピック」とも言われる。

ケー選手権大会(インカレ)に優勝を目指してこの大会に臨む。



ラクロス部

関東学生ラクロス1部リーグの農大女子は、1勝4敗の成績で2部との入れ替え戦が決定した。関口紗生(健3)は2017年度女子日本代表に選出され、7月26日に開かれたワールドゲームズ(ポーランド)に出場した。関東学生ラクロス2部リーグの農大男子は、2勝2敗1分けの成績で2部残留が決定した。

体操部

第52回全日本学生トランポリン競技選手権大会(8月26・27日、川崎市等々力アリーナ)

中村風稀(醸1)が全日本インカレ・女子個人Aクラスで4位に入賞して10月に開催される全日本選手権への出場が決定した。予選



安定した演技で4位入賞した中村

9位で通過後の一発勝負となる決勝では、リスクを背負いながらも難度得点を上げ(1ジャンプ当たり平均2回宙返り半ひねり以上の宙返りで、全く異なる種類の10ジャンプで構成)での演技構成で挑み、ミスのない安定した演技を披露し上位入賞を果たした。

全学応援団チアリーダー部

USA School & College Competition 2017で3位

全学応援団チアリーダー部は8月19日、東京都墨田区総合体育館で開かれたUSA School & College Competition 2017に出場し、大学編成 Show Cheer Advance部門で3位に入賞した。今後は、地区予選大会、全国大会に向け、さらなるレベルアップを目指す。



3位に入賞したチアリーダー部

編集後記

▼仙台での全日本選手権に出場した女子駅伝は、エースの棟久・佐藤ら出場選手の活躍で見事、来季のシード権を獲得するすばらしい活躍を見せてくれた。暮れの30日、富士山駅伝(全日本選抜)での活躍も楽しみだ。一方、男子の箱根駅伝予選会の結果は16位。出場した12人選手は懸命に走ったが昨年より順位を落としてしまった。4年連続で正月のテレビで農大健児の勇姿は見られないのは残念で寂しい限りだ。農大のたすきが箱根を走る姿を来季に期待したい。(小野)

編集委員
委員長 小泉 幸道
(副会長・名誉教授)
委員 館 博
(短大部 醸造学科教授)
委員 豊原 秀和
(常任理事・名誉教授)
委員 石川 浩一
(法人本部・総務部長)
委員 小野 甲二
(常任理事・事務局長)

